



# 庭の

身近なチョウを楽しもう

# チョウ



# 目次



庭のイモムシなどを見つける

6-7 ページ, 30-35 ページ

庭のチョウを調べる

16-22 ページ

## はじめに

近年では、多くの生きものが自然環境の悪化によって減少している一方で、さまざまな生きものを守る活動が各地で広がっています。私たち、日本チョウ類保全協会では、チョウをシンボルに、自然を守る活動を進めています。里山から高原・山岳まで多方面の活動を進めるなかで、今回は身近な「庭」という環境に注目しました。

「庭」は特に都市部では貴重な緑地となっており、そこには多くの生きものが生活しています。庭にどのような生きものがあるのかを調べることで、自然環境の現状や移り変わりを知ることができます。そして、庭の環境を少しでも生きものにやさしい環境にすることが、少しずつですが自然を守ることにつながっていきます。近年、欧米ではバタフライ・ガーデニングという言葉も生まれており、チョウの集う庭づくりを楽しんでいる人々も増えています。

庭のチョウや生きものを眺め、楽しむために、このガイドブックがお役に立つ場面があれば幸いです。

なお、この冊子は積水ハウス株式会社および積水ハウスマッチングプログラムの助成を受けて作成しました。





**庭のチョウを見つける**

4-5 ページ, 26-29 ページ

**チョウの庭づくり**

8-15 ページ

**第1章 庭のチョウを見つけてみよう**

庭を訪れるチョウ ..... 4

庭にすむチョウを探そう ..... 6

**第2章 チョウの庭づくり**

チョウの庭づくりを始めよう ..... 8

庭に植えたい、チョウの食草 ..... 10

庭に植えたい、チョウの吸蜜植物 ..... 11

実践 チョウの庭づくり ..... 12

**第3章 庭のチョウを調べてみよう**

庭のチョウ類調査に参加しませんか? ..... 16

どのように調査するの? ..... 18

庭のチョウ類調査 各種記入シート ..... 20

**第4章 庭から生物多様性を考える**

庭からつなげる生物多様性保全 ..... 24

庭にもすむ貴重なチョウ ..... 25

**第5章 庭でよく見られるチョウ**

成虫編 ..... 26

卵・幼虫・蛹編 ..... 30

よく似た種類の識別ポイント ..... 35

コラム 庭でもっとも見られるチョウは? ..... 23

コラム 絶滅の危機にあるチョウを守る ..... 36

日本チョウ類保全協会への入会案内 ..... 37

チョウの飼育方法 Q & A ..... 38

さらに詳しく知るために ..... 39



## 第1章 庭のチョウを見つけてみよう

# 庭を訪れるチョウ

庭を訪れるさまざまなチョウ。名前や習性が分かれば、日々の楽しみも広がります。ここでは、成虫を観察するためのポイントを紹介します。

### ①チョウの見られる時期は？

モンシロチョウといえば春のイメージが定着していますが、実際には春から秋まで見られます。東京の都心部では寒い冬を除く3月～11月頃まで、各種のチョウが飛んでおり、沖縄では冬でも姿が見られます。右ページのように、種類によって、現れる時期は異なります。

### ②チョウの飛ぶ時間帯は？

日中に飛ぶ種類がほとんどで、特に観察しやすい時間帯は10～12時頃です。ただ、真夏の暑い時期には、日中は木陰などで休み、朝夕の涼しい時間帯に活動する種類が多いです。ミドリシジミの仲間のように、早朝や夕方にのみ活動するものもいます。

### ③庭で見られるチョウの種類は？

23ページのコラムで紹介しているように、都会の中心部でなければ、一般的に10～30種ぐらいのチョウを観察できます。自然の豊かな場所でチョウを呼ぶための庭づくりをすると、50種以上のチョウを見ることもできます。

### ④多くの種類のチョウを観察するためには？

種類によって観察できる時期が異なる場合もあるため、年間を通じて観察をすることが大切です。また、森には森の、草原には草原のチョウもいます。近所の公園や田畑、雑木林に足を向けると、さらに多くのチョウを観察することができるでしょう。



## チョウの基礎知識ワンポイント

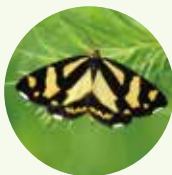
### ①チョウとガの区別は？

チョウとガは同じ仲間、識別が難しい種類も多いですが、一般的には右のような違いがあります。

なお、右の写真のように、ガにも美しくチョウと紛らわしい種類がいます。



イカリモンガ



キンモンガ

チョウ		ガ
昼	成虫の活動時間	夜（昼に活動するものも少数あり）
約240種	種数（日本）	約6,000種
鮮やかな種類が多い	色彩	地味な種類が多い
触角の先端が太くなる	区別点	触角の先端が細くなる

### ②チョウの一生

チョウは、卵→幼虫→蛹→成虫と成長します。幼虫は脱皮をしながら成長し、卵から孵化した直後を1齢幼虫、脱皮するごとに、2齢、3齢と呼びます。多くの種類では5齢幼虫を経て、蛹になります。

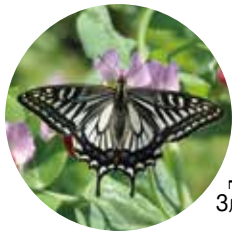
一世代の期間は種類によって異なり、アゲハやモンシロチョウは短いときには1ヵ月ぐらいで卵から成虫になり、1年に何回も発生します（多化性）。一方、ツマキチョウのように、年に1回しか成虫が現れないチョウもいます（一化性）。庭で見られるチョウの多くは、多化性です。





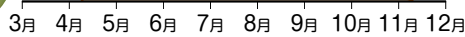
## 庭でよく見られるチョウとその時期

庭で観察できるチョウには、その庭に生える植物を食べて生まれたもののほか、近くの公園や農地などから飛んでくるものもあります。ここでは観察しやすい代表的な庭のチョウと、それぞれの成虫の東京周辺での主な発生時期を紹介します。なお、全国的に庭でよく観察できるチョウの顔ぶれは、26～29ページにまとめました。

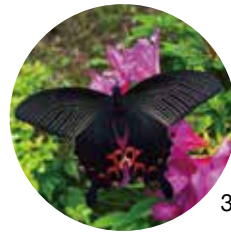


アゲハ

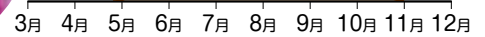
成虫の見られる時期と個体数のめやす



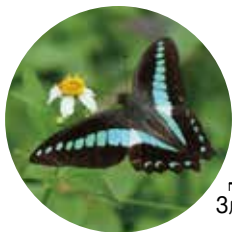
庭木のミカン類やサンショウで発生し、都市部でも見られるお馴染みのチョウで、4～11月まで姿が見られます。



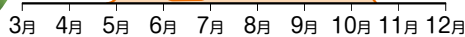
クロアゲハ



庭木のミカン類などで発生し、都会でも見られますが、アゲハより日陰を好み、出現期もやや短く5～10月に現れます。



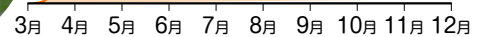
アオスジアゲハ



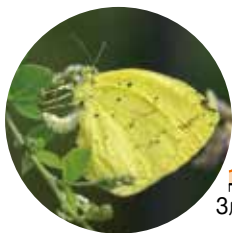
街路樹や公園に植栽されたクスノキやタブノキで発生し、都市部でも普通に見られます。夏に数が多くなります。



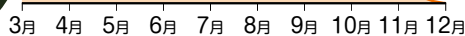
モンシロチョウ



馴染み深い種類で、家庭菜園のキャベツや、庭や公園の野生のアブラナ類で発生し、3～11月まで観察できます。



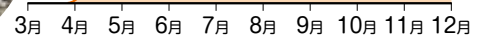
キタキチョウ



庭のハギや、路傍の雑草であるメドハギで発生します。成虫で冬を越すため、冬に草の間で見つかることもあります。



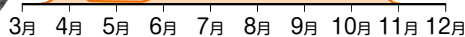
ヤマトシジミ



人家や公園で、路肩やコンクリートの隙間などに生えるカタバミでも発生します。4～12月に見られ、秋に増加します。



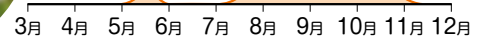
ルリシジミ



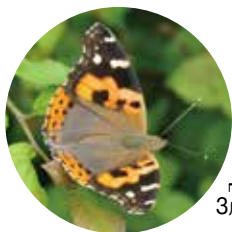
3月に最も早く現れるチョウのひとつで、秋まで見られ、藤棚のフジや、ハギの蕾に産卵し、幼虫は蕾や花を食べます。



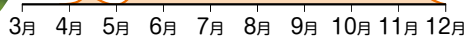
ツマグロヒョウモン



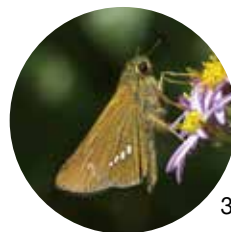
近年分布が北上しているチョウで、スミレ類や花壇に植えられたパンジーでも発生します。秋に個体数が多くなります。



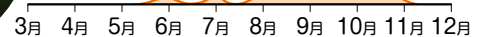
アカタテハ



農地や公園に生えるカラムシで発生し、花の蜜を求めて庭に見られます。秋に数が増え、観察する機会が増えます。



イチモンジセセリ



水田のイネや、イネ科の雑草で発生します。世代を繰り返しながら夏から増え、秋に最も数が多くなります。



## 第1章 庭のチョウを見つけてみよう

# 庭にすむチョウを探そう——さまざまなイモムシ

庭で見られるイモムシには、チョウの他、ガやハチなどさまざまなものが含まれています。庭木を丸坊主にしたり、毒を持つ種類もいるなど、人間にとって迷惑なものもありますが、姿の面白い種類も多く、生きもの同士のつながりの上では大切な虫たちです。

### さまざまなイモムシたち

■ ……チョウ ■ ……ガ ■ ……ハチ



アゲハ



モンシロチョウ



ヤマトシジミ



ルリタテハ



ヒメジャノメ



イチモンジセセリ



アメリカシロヒトリ



**毒** (1 齢のみ)

マイマイガ



**毒**

クロシタアオイラガ



セスジスズメ



ミノウスバ



オオミズアオ



コスズメ



**毒**

ドクガ



ギンシャチホコ



チュウレンジバチ

### ◆イモムシの見分け方

ハチにも幼虫が葉を食べるイモムシ形のものがあります。ハバチ類の幼虫とチョウ・ガの幼虫とは、腹部にある脚の数が異なることで見分けることができます。右図のように、チョウとガは腹脚が1～4対、ハバチでは通常5～7対です。庭でも、ツツジ類につくルリチュウレンジなど、数種類のハバチが普通に見られます。

一方、チョウとガの幼虫は、そもそも同じ仲間なので非常に似ており、ひとつの特徴だけで区別することは困難です。慣れてくると、幼虫の形の特徴から見分けられるようになります。また、幼虫がいる植物(食草)も、大きな手がかりとなります。

なお、ガの幼虫には少数ですが毒のある種類もあり、触る時には注意が必要です。



チョウ類 (サトキマダラヒカゲ)



ハバチ類



# 庭にすむチョウを探そう——幼虫や卵・蛹

チョウの卵・幼虫・蛹を探す第一歩は、チョウの幼虫の食べる植物（本書では草も樹木も合わせて「食草」と呼びます）を知ることから始まります。

チョウの食べる植物がわかったら、下のヒントをもとに幼虫を探してみましょう。

## ①食べた痕を手がかりに！

草木の葉に穴や傷がある時は、何かの虫に食べられた痕です。葉が食べられていれば、そのまわりに幼虫がついていないか探してみましょう。幼虫は硬い葉よりも柔らかい葉を好むため、柔らかい葉を中心に探します。花や蕾のみを食べる種類もあります。幼虫の食べ痕には特徴があり、食べ痕だけで種類がわかるものもあり、いちど見つけると、慣れてきて次々と見つかるようになります。また、シジミチョウの仲間では、幼虫の蜜を求めてアリが集まっていたり、アゲハチョウなど大型の種類では地面や葉に落ちた黒い糞が目立つため、それらも幼虫を探す手がかりになります。



ヒオドシチョウの幼虫と食痕

## ②幼虫は巣を作る場合も

セセリチョウの仲間の幼虫は、葉を綴って作った巣の中にいます。タテハチョウやシジミチョウの仲間にも、特徴的な巣を作る種類があります。巣の特徴を覚えると、幼虫を見つけやすくなります。



ムラサキシジミの幼虫とアリ

## ③卵は新しい葉を中心に

多くのチョウは、卵を植物の葉に産みます。このとき、幼虫が食べやすいように新しい葉に産むことが多いため、卵を探すときは、草木全体ではなく、新しく柔らかい葉を中心に探します。ただし、なかにはムラサキシジミのように新芽付近に産むもの、ツマグロヒョウモンのように食草の周辺の枯れ枝などに産むものもいます。



イチモンジセセリの巣と巣内の幼虫

## ④蛹は難しい

蛹は、卵や幼虫と比べて数が少なく、たいていは食草から離れた目立たない場所にあります。そのため、蛹を見つけることは難しいですが、アゲハやモンシロチョウは食草の枝や、付近の家の壁などで見つけることができます。

## ⑤冬に見つけやすい種類も

チョウの冬越し方法（越冬態）は、種類によってさまざまです。例えば、アゲハやモンシロチョウは蛹、キタキチョウやキタテハは成虫、ツマグロヒョウモンは幼虫で冬を越します。

冬越しはしっかり身を守る場所で行われるため、チョウを見つけることは難しくなりますが、エノキを食べるゴマダラチョウの幼虫は、冬には根元に下りて落葉の裏でじっとしているため、見つけやすくなります。



アカタテハの巣と巣内の幼虫

## ⑥生態を知ることが大切

それぞれの種類の生態を知ると、探し方のヒントがわかります。30～35ページによく見られるチョウの卵・幼虫・蛹を紹介しました。

※イモムシについてさらに詳しく知りたい時のために、39ページに関連する本を紹介しています。



エノキの根元のゴマダラチョウ幼虫



## 第2章 チョウの庭づくり

## チョウの庭づくりを始めよう

ここでは、チョウを呼ぶ庭づくりの方法を簡単に紹介します。日本ではまだ広がっている途上ですが、バタフライ・ガーデニング（Butterfly Gardening）という言葉は、アメリカやヨーロッパではすでに普及し、多くの本も出版されています。

## ① 幼虫の餌となる植物を植えよう



パンジーの花壇はツマグロヒョウモンの発生場所になる

## ★チョウの幼虫は特定の植物（食草）を食べて育ちます

- 身近なチョウの代表的な食草 → 10 ページ
- さらに多くの種類の食草 → 26 ~ 34 ページ

庭でチョウが育つようにしようと思えば、幼虫の食べる植物（食草）を植えることが必要です。庭という空間だけではスペースも限られるため、家の周辺の広い範囲にどのような種類のチョウが生息しているのかを調べ、効果的な植物を揃えていくのが近道です。

また、チョウの幼虫は、新しい葉を好む傾向があるため、クスノキやアラカシなどの樹木は、定期的に思い切った剪定をすることで新芽が出て、チョウが産卵しやすくなります。

## ② 蜜を吸う植物を植えよう

## ★チョウが集まりやすい花を植える

→ 11 ページ

チョウの成虫が蜜を吸う植物（吸蜜植物）は、さまざまな時期に咲く花をそろえることが大切です。園芸店では多くの花が売られていますが、チョウの集まりやすい種類があり、特にブッドレアはチョウの集まる花として有名です。

チョウは赤、白、黄色などの色の花に集まりやすい傾向があり、花の時期や栽培の容易さなどを考えながら、植えるのも楽しみのひとつです。



ブッドレアには多くのチョウが集まる

## ★樹液や果実を集まるチョウもいる

花の蜜を吸わず、樹液や果実などに集まるチョウもいます。カキやイチジクを植えておくと、キタテハやウラギンシジミなどが集まります。また、チョウの餌台を作って、定期的に果実を置くことも有効です。



カキの果の汁を吸うシータテハ



餌台に置いたバナナに集まるチョウ

◎都市部の庭ではチョウが少ないことから食草を植えることに、家の周りに自然が豊かな場合には吸蜜植物を植えることに重点を置こう。



### ③生きもののすみやすい庭にしよう

#### ★チョウは庭全体を利用する

チョウがすみやすい環境には、食草と吸蜜植物ばかりではなく、多様な環境が備わっていることも必要です。ゴマダラチョウの幼虫がエノキの根元の葉裏で越冬したり、多くのチョウが食草以外で蛹になるなど、チョウは庭全体を利用するようになっていきます。このため、庭全体の手入れも、生きものに気をつけながら適度に行うことが必要になってきます。

#### ★チョウの幼虫は多くの天敵に狙われる

一様な環境では、幼虫はすぐに天敵に食べられてしまいます。そのため、植栽する樹木も丈の低いものから高いものまでさまざま、日向も日陰も見られる、やや自然に近い環境を創出することが大切です。

#### ★殺虫剤や農薬などの使用はできるだけ避ける

庭で農薬を使わないばかりでなく、広域でのアメリカシロヒトリの一斉防除などにも注意が必要です。



様々な草木を植えた庭



クモに食べられるキアゲハの幼虫



アメリカシロヒトリの防除

### ④生物多様性に配慮しよう

#### ★庭から生物多様性の保全につなげていこう

→ 24～25 ページ

近年、さまざまな原因による環境の悪化に伴って、野生生物が大きく減少しています。チョウの庭づくりが自然環境の保全に少しでもプラスになるよう、チョウだけではなく、さまざまな生きものすめる庭づくりを進めていきましょう。

#### ★野生植物に悪影響を与えない注意を

以前園芸植物として利用されていたオオハンゴンソウやオオキンケイギクは、野生に広がって、貴重な自然植生の中にも侵入するなど、環境を悪化させています。そのため、園芸植物を利用する際には、自然に悪影響を与えない種類を利用することが必要です。前記の植物は現在「特定外来生物」に指定され、販売等が禁止されていますが、同様に「要注意外来生物」に指定されている植物も、利用するべきではありません。

#### ★植える植物に注意を

庭に植える植物は、植物に悪影響を与えないように掘り取りは避けて、種子やむかごを採取することや、遺伝的な攪乱に配慮して、なるべく近くの植物を利用することなど、慎重な配慮が必要です。



庭で羽化した絶滅危惧種チョウセンアカシジミ



特定外来生物に指定されたオオキンケイギク

◎チョウの庭づくりの実例を、  
12～15 ページで紹介しています。



第2章 チョウの庭づくり

# 庭に植えたい、チョウの食草

身近に見られるチョウを庭に呼ぶために、お薦めの食草です。

ここでは代表的なものしか紹介できないため、

第5章 26～34 ページもあわせてご参照ください。



**ミカン類**

ナツミカン、ユズなど多くの栽培品種がある。アゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハなど多くのアゲハチョウ類が利用する。



**サンショウ**

アゲハやカラスアゲハなど多くのアゲハチョウ類が利用する。類似のカラスザンショウは生長が早く、葉も大きい。



**シロツメクサ**

別名クローバー。モンキチョウやツバメシジミが利用する。公園や荒地によく生える。吸蜜植物としても利用される。



**セイヨウカラシナ**

セイヨウアブラナやセイヨウカラシナなどのアブラナ科植物は、モンシロチョウやツマキチョウなどが好んで利用する。



**ハボタン**

冬～春にかけて彩りゆたかな葉を觀賞する花壇の定番。春に花茎が伸びて開花する頃に、モンシロチョウがよく利用する。



**ハギ類**

多くの園芸品種があり、キタキチョウ、ルリシジミ、ツバメシジミ、ウラナミシジミなど、植えると多くのチョウが集まる。



**カタバミ**

道端のコンクリート脇、荒地に普通に生える。日当たりの良い場所では、ヤマトシジミがすくべに利用できるようになる。



**パンジー・ピオラ**

ツマグロヒョウモンがよく利用する。野生のスミレ類は、他のヒョウモンチョウ類にも利用されることが多い。



**エノキ**

ゴマダラチョウやテングチョウ、外来種アカボシゴマダラが利用する。生長が早く、数年で屋根に届くほど大きくなる。



**クスノキ・ゲッケイジュ**

アオスジアゲハが利用する。クスノキは大きくなるため、スペースが狭い場合には、ゲッケイジュの鉢植えなどが向く。



**ウマノスズクサ**

ジャコウアゲハが利用し、植えると集まることもある。少ない植物だが、河川堤防などの日当たりのよい草地に生える。



**ススキ・チガヤ**

草地に生えるイネ科植物は、イチモンジセリやヒメジャノメ、ヒメウラナミジャノメが利用する。



**ホトトギス**

ルリタテハが利用し、半日陰の場所に植えるとよく産卵する。花も美しいことから、主に園芸品種が販売されている。



**フジ**

ルリシジミやウラギンシジミが開花期に利用する。花が美しく、つる植物なので棚を組んだ状態で利用されることが多い。



**アラカシ**

生垣などによく利用される。ムラサキシジミが新葉を利用するため、定期的に剪定することで利用頻度が高くなる。



**カラムシ**

アカタテハが利用する。荒地や耕作地周囲によく生える。日当たりの良い場所に植えるとよいが、繁殖力が強いので注意。



# 庭に植えたい、チョウの吸蜜植物

年間を通じて花が咲くように、そろえることがポイントです。

いずれの植物も栽培は容易ですが、

より詳しい栽培方法などは園芸植物の本やウェブサイトをご参照ください。



🌸 **ショッカサイ (ムラサキハナナ)**

【花期】3～5月 葉の花に似た四弁の薄紫色の花が1ヵ月位次々に咲く。ツマキチョウなどが食草として利用する。



🌸 **ツツジ類**

【花期】4～6月 サツキなど数多くの園芸品種があり、鉢植えも庭植えも可能。各種のアゲハチョウ類がよく集まる。



🌸 **コデマリ**

【花期】4～5月 弧を描いて垂れる枝の上側に白い5弁の小花が集まって咲く。ホシミスジが食草として利用する。



🌸 **サンジャクバーベナ**

【花期】5～10月 病気が少なく、地植えのままで毎年、花が咲く。背が高く細身の草姿なので、チョウがとまりやすい。



🌸 **ブッドレア**

【花期】6～10月 紫色や白色で各種のチョウが吸蜜に訪れ、チョウの庭づくりには有用。よく育つので時々剪定する。



🌸 **ジニア (ヒャクニチソウ)**

【花期】6～10月 強い日差しの下で丈夫に3ヵ月以上咲き続ける。一重咲きで背が高くなる品種がチョウに好まれる。



🌸 **マリーゴールド**

【花期】6～11月 花期が長く丈夫で虫がつきにくい。根に線虫の防除効果があるので作物の間に植えられることもある。



🌸 **オカトラノオ**

【花期】6～7月 白い花穂が虎の尾状に垂れ、半日陰でも栽培できる。ヒヨウモンチョウ類がよく集まる。



🌸 **キバナコスモス**

【花期】7～10月 真夏の炎天下にも強く、初夏から秋遅くまで開花する。丈夫で育てやすく、こぼれ種で毎年繁殖する。



🌸 **アペリア**

【花期】5～11月 長期間、釣鐘状の小花が次々に咲き続ける。大気汚染や病害虫に強い。挿し木・株分けで増やせる。



🌸 **ユリの仲間**

【花期】7～8月 オニユリやヤマユリなどにアゲハチョウ類が良く集まる。花卉の斑点は蜜標という目印である。



🌸 **オミナエシ**

【花期】8～10月 秋の七草の一つで、野生種以外に園芸品種もある。黄色い小さな花を多数つけ、各種のチョウが集まる。



🌸 **カクトラノオ**

【花期】8～10月 直立する茎の先に筒形の花を穂状につける。耐寒性が強く、特にアゲハチョウ類がよく集まる。



🌸 **フジバカマ**

【花期】9～11月 秋の七草の一つ。繊細な糸の様な花卉で群がって咲く。葉に芳香あり。アサギマダラが好んで吸蜜する。



🌸 **キクの仲間**

【花期】8～11月 コンギクやヨメナ、シオンなど、小花を多数つけるものに、チョウがよく集まる。丈夫で栽培しやすい。



🌸 **ハイビスカス**

【花期】5～10月 南国の花の代表。交配品種が多い。暖地では庭で栽培でき、アゲハ類やツマキチョウなどが集まる。

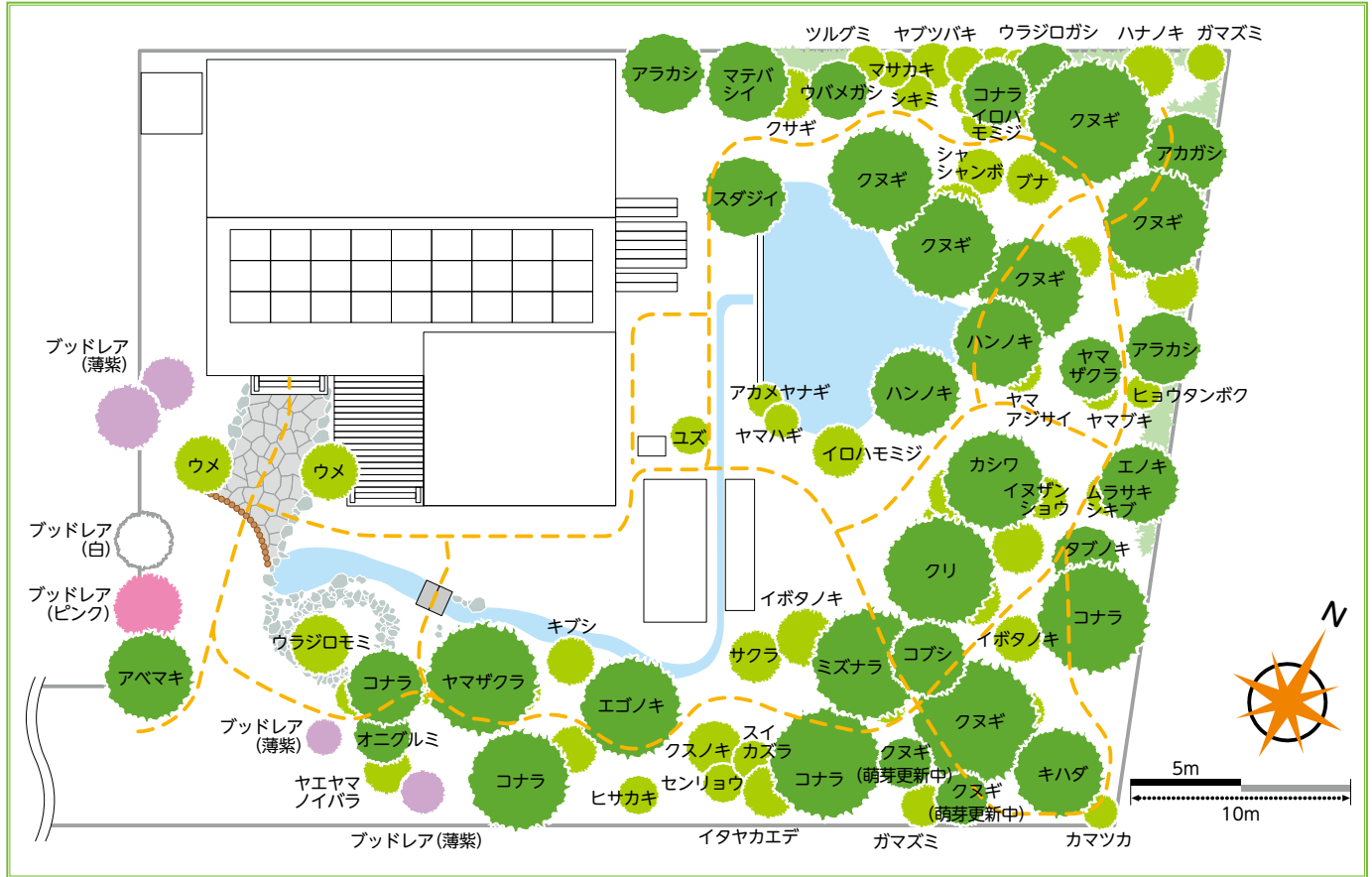


第2章 チョウの庭づくり

# 実践 チョウの庭づくり

ここでは、チョウの庭づくりをよりイメージしていただくために、チョウの庭づくりを実践されている方をご紹介します。

例1 秋山昌範さんのお庭：茨城県牛久市



◆庭づくりの歴史

- 2003年土地購入時より、住宅建設に先がけ庭づくりを開始。もともとは更地。
- 住宅地に立地しているものの、近所に牛久自然観察の森があり、周囲の自然は豊かである。

◆庭づくりのポイント

- おにぎり型の池を中心に谷戸の地形にし、昭和の里山を再現することを試みた。
- 植物は、人が改良した品種は植えないようにしている。
- クヌギ・クリなどは実生から育て、他の植物もほとんど自然に生えてきたもの、鳥が運んできたもので構成されている。

◆工夫していること

- 落ち葉は、落ち葉プールにためて腐らせ、腐葉土にして循環させている。
- 玄関先の敷石には、鉄平石を敷いている。寒い時期に輻射熱で暖かくなり、チョウ（タテハ類）が日光浴をしに来る。
- チョウの低温期の活動には、陽だまりができるのとよいので、北東を閉鎖して、南東を開放するようにしている。

◆その他

- ビオトープの変化として、最近は鳴く虫が増えてきた。それは、草原や木陰ができてきた5年目以降のことである。



**オーナーさん ご紹介**

**秋山昌範さん**

デザイン・編集業の傍らビオトープ設計士として活動しています。昆虫少年から、徐々に生態系の保全・創造へと興味が移りました。





庭の全景 池を囲むように、クヌギやコナラ、ハンノキなどの広葉樹が林立する



アイレベルで見た池、手前はサクラタデ



花壇の植栽もほとんどが原種



吸水するミドリシジミ♀



クヌギ樹液に来たチョウ



クヌギ樹液に来たカブトムシ



産卵中のクロスジギンヤンマ

### チョウの食草

#### <草本>

- ・アリアケスミレ他、スミレ類
- ・ヤハズソウ
- ・シロツメクサ
- ・ヤマユリ
- ・ホトトギス
- ・ヤマハギ
- ・ウマノスズクサ
- ・ミヤコザサ他、ササ類

#### <木本>

- ・クヌギ
- ・ハンノキ
- ・ユズ他、ミカン類
- ・クスノキ
- ・イボタノキ
- ・エノキ
- ・ブナ
- ・イヌザンショウ

- ・キハダ
- ・タブノキ
- ・アカガシ
- ・アラカシ
- ・コクサギ
- ・コナラ
- ・ミズナラ
- ・ウラジロガシ
- ・スダジイ

- ・マテバシイ
- ・ウバメガシ
- ・カシワ
- ・アベマキ
- ・ガマズミ
- ・ヤマツツジ

### チョウの吸蜜植物

- ・ブッドレア
- ・サンジャクパーベナ
- ・クサネム
- ・シラヤマギク
- ・ニラ
- ・ミンハギ
- ・ヤクシソウ
- ・ツルボ
- ・コシオガマ

### ……おすすめの植物

- ・カワミドリ
- ・ユウガギク
- ・ミズキンバイ
- ・フウリンブッソウゲ
- ・ノアザミ
- ・ノダケ
- ・フウロソウ
- ・ヤマユリ
- ・オミナエシ

- ・サウギキョウ
- ・ウツボグサ
- ・ゴマナ
- ・ヒキオコシ
- ・フジバカマ
- ・スイカズラ
- ・ツクバトリカブト
- ・ムラサキシキブ
- ・サラシナショウマ

- ・カタクリ
- ・ニリンソウ
- ・クヌギ（樹液）
- ・クリ
- ・クサギ
- ・ヤマツツジ
- ・ヤマザクラ
- ・ガマズミ
- ・サンショウバラ ほか

### 観察できるチョウ（54種）

- ・アゲハ
- ・キアゲハ
- ・クロアゲハ
- ・カラスアゲハ
- ・ナガサキアゲハ
- ・モンキアゲハ
- ・オナガアゲハ
- ・ジャコウアゲハ
- ・アオスジアゲハ
- ・カタキチョウ
- ・モンシロチョウ
- ・スジグロシロチョウ
- ・モンキチョウ
- ・ツマキチョウ

### ……発生しているチョウ

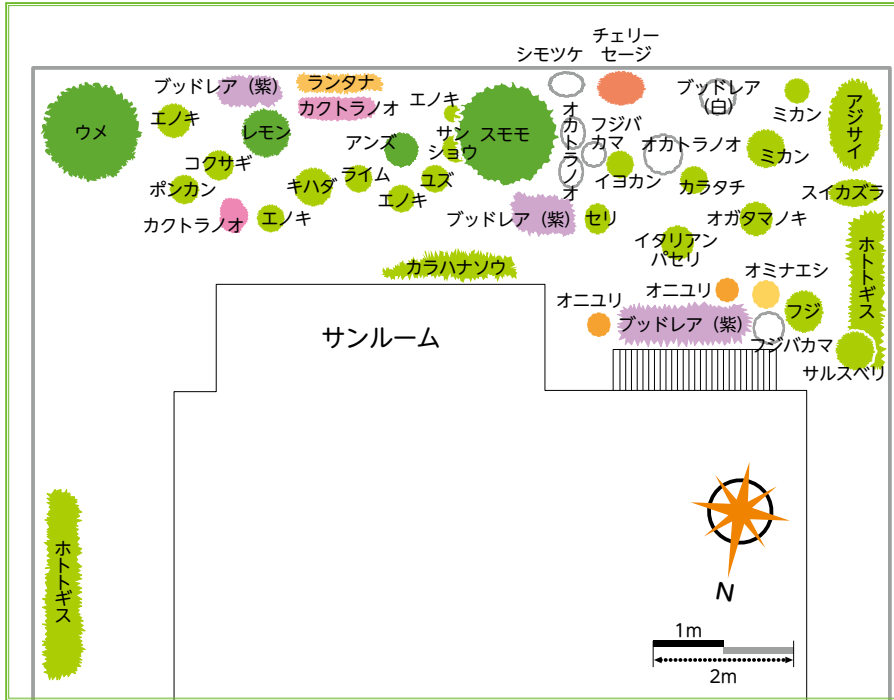
- ・ウラギンシジミ
- ・ゴイシシジミ
- ・ベニシジミ
- ・ウラナミシジミ
- ・ムラサキシジミ
- ・ムラサキツバメ
- ・アカシジミ
- ・ウラナミアカシジミ
- ・ミズイロオナガシジミ
- ・ウラゴマダラシジミ
- ・ミドリシジミ
- ・ヤマトシジミ
- ・ルリシジミ
- ・ツバメシジミ

- ・テングチョウ
- ・アサギマダラ
- ・メスグロヒョウモン
- ・ミドリヒョウモン
- ・ツマグロヒョウモン
- ・イチモンジチョウ
- ・アサマイチモンジ
- ・コムスジ
- ・キタテハ
- ・ヒオドシチョウ
- ・ルリタテハ
- ・アカタテハ
- ・ヒメアカタテハ
- ・ゴマダラチョウ

- ・ジャノメチョウ
- ・ヒカゲチョウ
- ・サトキマダラヒカゲ
- ・コジャノメ
- ・ヒメジャノメ
- ・クロコノマチョウ
- ・ヒメウラナミジャノメ
- ・ダイミョウセセリ
- ・コチャバネセセリ
- ・キマダラセセリ
- ・イチモンジセセリ
- ・チャバネセセリ



例2 鈴木隆さんのお庭：神奈川県川崎市麻生区千代ヶ丘



玄関の塀の上にはスマレ類の鉢植えが並ぶ



一度だけ訪れたクジャクチョウ (2010年8月)



庭の全景 庭木が多く、ブッドレアやフジバカマが咲く



秋には、ヒョウモン類が増える



パセリを食べるキアゲハの幼虫

◆庭づくりの歴史

- 居住したのは30数年前だが、2008年頃よりチョウを意識して植栽を始めた。
- 周りは住宅地だが、北方向には東京よみうりカントリークラブなどゴルフ場や緑地が存在する。

◆庭づくりのポイント

- 庭にチョウが来た時に撮影しやすいよう、花を植えている。
- 花が咲いていないとなかなかチョウが来ないので、春から秋にかけて、それぞれの季節に咲く吸蜜植物を植えている。

◆工夫していること

- ブッドレアは花期が長いので活用しており、花柄を摘むことによって、開花期間を延ばしている。
- 食草に幼虫が発生した時には、そのままにしておくとうや虫にやられてしまうので、飼育・観察することもあり、写真も撮っている。



オーナーさん ご紹介

鈴木 隆さん

10年ほど前、長野県の御泉水自然園で出会ったアサギマダラ、クジャクチョウの魅力に惹かれたのが、この趣味を始めたきっかけ。



## チョウの食草

### <草本>

- ・スミレ他スミレ類
- ・ホトトギス
- ・ウマノスズクサ
- ・イタリアンパセリ
- ・オニユリ
- ・オミナエシ

- ・ヤマノイモ
- ・カタバミ
- ・カラハナソウ
- ・パセリ

### <木本>

- ・イヨカン
- ・カラタチ
- ・ユズ
- ・レモン
- ・ウンシュウミカン
- ・サンショウ

- ・カラスザンショウ
- ・コクサギ
- ・キハダ
- ・エノキ
- ・スイカズラ
- ・ササ類

## チョウの吸蜜植物

- ・ブッドレア (白・紫)
- ・フジバカマ
- ・オニユリ

- ・カクトラノオ
- ・ランタナ
- ・オカトラノオ

- ・オミナエシ
- ・ハナウド
- ・ウツギ ほか

## 観察できるチョウ (33種: 2008~2013年)

- ・アゲハ
- ・キアゲハ
- ・クロアゲハ
- ・カラスアゲハ
- ・ナガサキアゲハ
- ・モンキアゲハ
- ・オナガアゲハ
- ・ジャコウアゲハ
- ・アオスジアゲハ

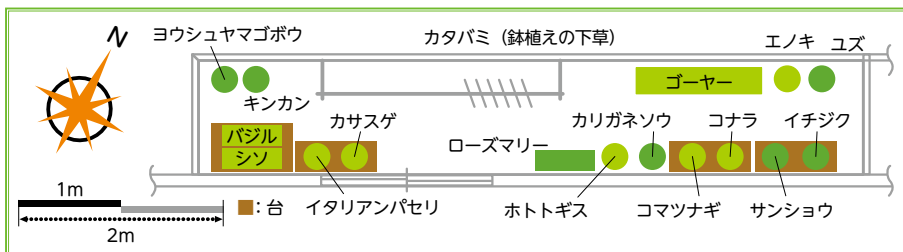
- ・キタキチョウ
- ・モンシロチョウ
- ・ウラギンシジミ
- ・トラフシジミ
- ・ベニシジミ
- ・ヤマトシジミ
- ・メスグロヒョウモン
- ・ミドリヒョウモン
- ・ツマグロヒョウモン

## ……発生しているチョウ

- ・イチモンジチョウ
- ・コムスジ
- ・キタテハ
- ・ルリタテハ
- ・クジャクチョウ (1回のみ)
- ・アカタテハ
- ・ヒメアカタテハ
- ・ゴマダラチョウ
- ・アカボシゴマダラ (外来種)

- ・ヒメジャノメ
- ・クロコノマチョウ
- ・ヒメウラナミジャノメ
- ・ダイミョウセセリ
- ・キマダラセセリ
- ・イチモンジセセリ

## 例3 黒坂桐子さんのベランダ: 東京都江戸川区



### ◆ベランダを利用する

- マンションの3階。周囲の緑は少ない。
- プランターや鉢植えを使ってガーデニングを行っている。好きなものを植えていたらチョウが来るのがわかった。
- 吸蜜植物は少ないが、アゲハやヤマトシジミが産卵に訪れる。



ゴーヤーでよく吸蜜するヤマトシジミ

ベランダの様子

### ◆工夫していること

- チョウが集まるためには、チョウが飛んでいる時に緑を見つけることが必要と考え、台の上に大振りな葉を付ける植物を置くようにしている。
- アゲハは次々と卵を産みにくるため、鉢植えだけではすべてを育てることができない。共倒れしないように、幼虫を一部公園などに放しに出掛けている。
- アゲハの幼虫は蛹化前に歩き回るので、水やりなどの際に踏まないように気を付けている。

## 観察できるチョウ

- ・アゲハ
- ・ナガサキアゲハ

- ・ヤマトシジミ
- ・ツバメシジミ

- ・イチモンジセセリ

## チョウの食草や吸蜜植物

- ・キンカン
- ・ユズ
- ・サンショウ
- ・イタリアンパセリ
- ・バジル

- ・コナラ
- ・エノキ
- ・イチジク
- ・カリガネソウ
- ・ヨウシュヤマゴボウ

- ・コマツナギ
- ・アズマネザサ
- ・ホトトギス
- ・シソ
- ・ユキノシタ

- ・カタバミ
- ・ゴーヤー



オーナーさん ご紹介

### 黒坂桐子さん

子どもの頃はキアゲハの幼虫観察をしていました。チョウの幼虫が葉っぱをムシャムシャと食べる様子を見るのが好きです。



### 第3章 庭のチョウを調べてみよう

## 庭のチョウ類調査に参加しませんか？

庭の花壇を訪れるさまざまなチョウ。名前が分かれば出会いの楽しみが増え、継続して調べると自然環境の変化を知ることができます。ここでは調査要領をまとめました。

#### このガイドブック一冊があれば調査できます

この調査では、身近なチョウを通して知ることができる自然環境の変化を、多くの目で継続して明らかにしていこうとしています。はじめての方でも簡単に参加できるよう、調査方法の手順や各種記入シート、身近なチョウや食草の紹介を、一冊のガイドブックにまとめました。身近なチョウを観察し、自然環境を知る輪に、参加しませんか？

#### 変わりゆく身近な顔ぶれ



ナガサキアゲハ



ムラサキツバメ



ツマグロヒョウモン

チョウの中には、近年分布が大きく変わっているものもあります。多くのチョウが減少している一方で、少数ですが、地球温暖化による気候変動や、その他の人間活動によって、分布を広げているチョウも見られます。ナガサキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモンなどは、かつて関東地方では見られませんでした。2000年頃より南から分布を拡大し、今では、普通に見られるようになりました。

日本チョウ類保全協会では、庭のチョウ類調査を2013年よりスタートし、継続して行っています。

多くのおみなさんのご参加をいただくことで、今後も多くのことがわかってくと期待されます。

下記の要領に従って、ぜひ、ご参加ください。

#### 参加の流れ

### ① 参加の申し込み → 参加シート（20ページ）の記入と提出

- 調査開始時：「参加シート」（20ページ、用紙または電子ファイル※）  
→ E-mail・FAX・郵送で当協会まで提出
- 参加シートは調査場所ごとに記入（複数の場所で調査する場合→各調査場所ごとに1枚ずつ記入）

### ② チョウの調査の実施 → 記録シート（21ページ）に記入

#### 【調査場所】

- 自宅の庭またはベランダ、学校の校庭。それらが無い場合には、近くの公園や神社、河川敷など、身近な緑地も対象に含めるが、あくまでも、身の回りの自然が対象。

#### 【調査時の記入】

- 調査時：「記録シート」（21ページ、用紙または電子ファイル※）は、必要分をコピーして利用



## 【調査日と期間】

- 調査日：1～2週間に1回程度の実施。

この頻度で実施できない場合→月に1回以上実施。

- 調査の実施期間：3月1日～12月31日（チョウの成虫が見られる期間）。沖縄や小笠原諸島など温暖な地域では1年中。ただし、地域や標高によってチョウの見られる時期が異なるため、調査期間はチョウの見られる時期より少し長めに設定。年間を通しての参加が基本だが、季節の途中からの参加も可。

## 【調査の時間帯】

- チョウが多く見られる時間帯に30分～1時間程度、調査を実施。
- 外出や帰宅の際に、短時間で思いがけないチョウを見かけた場合→時間の項目の「短」にチェック。
- 観察しやすい時間帯→春や秋なら10～12時頃。  
→夏の暑い日は9～10時頃、もしくは夕方の涼しい時間帯。
- ミドリシジミ類など活動時間帯が朝夕に限られる種類については、調査時間を適宜追加。

## 【天候】

- 基本的に好天時に実施。曇天の場合は20℃以上を目安に実施。
- 調査開始時の天候と気温をできるだけ記入。  
「快晴」：雲が空に占める割合で0～1割 「晴」：同2～8割 「曇」：同9～10割  
晴の時に限り、空に占める雲の割合（%）を記入。
- 無風または微風時に実施（風が強いとチョウが飛ばなくなるため）。

## 【チョウの観察時の記録方法】

- 種類ごとに、同時に見られた数を、その都度、時間を追って記録する（次ページに図解）
- 観察した成虫のオス（♂）メス（♀）や、吸蜜植物、卵・幼虫・蛹を発見し庭でチョウの発生を確認した場合などには、数字入力欄の下に適宜記入。

3

## 調査結果の集計 → 集計シート（22ページ）を利用してとりまとめ

- 調査結果→「集計シート」（22ページ、用紙または電子ファイル※）を利用。
- それぞれの種類で、月ごとに、同時に確認した最大の個体数に○をつけ、その数字を集計シートに転記。  
観察した個体数の合計ではないので注意。
- 「最初に観察した日（初見日）」「最後に観察した日（終見日）」「庭で発生したかどうか」「利用した食草」「観察した吸蜜植物」等を記入。

4

## 調査結果の提出 → 集計シートと調査シートのコピーを当協会まで送付

- 集計シート・記録シート→どちらもコピーして、毎年1月中に下記の係まで送付。（原本を手元に残す）
- 調査に参加された方には、随時、電子メール等によって、関係する情報等をお送りします。  
年度終了後、結果をご報告します。
- 調査への参加や結果報告をウェブ上でできるよう、今後、庭のチョウ類調査用の専用サイトをつくる予定です。利用可能になりましたら、参加された方にはご連絡します。

## 【調査の問い合わせ、および参加シート・調査結果の提出先】

特定非営利活動法人 日本チョウ類保全協会 庭のチョウ係  
〒140-0014 東京都品川区大井1-36-1 曾根プラザ301号  
TEL・FAX：03-3775-7006 E-mail：jbcgs@japan-inter.net

※参加シートや記録シート、集計シートの電子ファイルは、当協会ホームページの「庭のチョウ類調査のページ（<http://japan-inter.net/jbcgs/garden.html>）よりダウンロードできます。

※お預かりした個人情報は当協会でも厳重に管理し、当協会からのご連絡やご案内、ご質問に対する回答など以外の目的では一切使用しません。



### 第3章 庭のチョウを調べてみよう

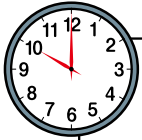
## どのように調査するの?

ここでは具体的な調査結果の記入方法について、要点を絞ってご説明します。

#### ◆調査実施のポイント

- 晴れの日（曇りの場合は20℃以上）に実施
- 風のない日か微風の日
- 1～2週間に1回程度実施
- 時間はできるだけ30分以上
- チョウの見られる時間帯（通常、午前10～12時頃）

### 調査の具体例



#### ◆今回調査した時の条件

- 日付 4月10日
- 時間 10:00～10:30 30分間
- 天候 快晴
- 温度 20℃（調査開始時）

調査  
スタート



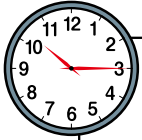
#### ◆アゲハが1匹（個体）飛来

アゲハが  
来たわ!



記録シートの  
個体数記入欄

1	:	:
.	:	.



#### ◆アゲハがまた1匹飛来

さっきの  
チョウと  
同じかしら?

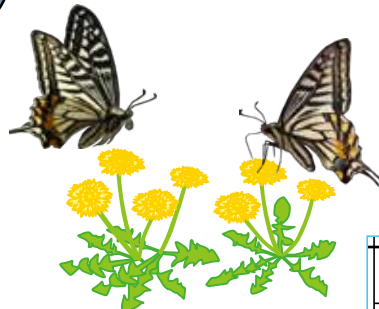


1	:	1
.	:	.



#### ◆アゲハを2匹同時に観察

2匹  
いたのね!



1	:	1	:	2
.	:	.	:	.

#### ◆調査ポイント：「同時に見られた数を記入」

同じ種類を何回か見かけた場合、同時に見られた数をその都度記入します。数を評価するのに、前後に現れたチョウが同じ個体かどうかを区別するのは難しいためです。



#### ◆アゲハを1匹観察



1	:	1	:	2
1	:	.	:	.

#### ◆今回の調査結果の記入例

### 庭のチョウ類調査 記録シート

調査期

日付	4 / 10
時間	10:00～10:30・短
天候	快晴・晴・曇(雲) % 快
温度	20℃
種名	1・1・2 1・.
1	アゲハ 2♂ 初見日 タンポポで吸蜜
種々	1 . ? . ?



調査終了



# 「記録シート」と「集計シート」の記入例

調査開始時の気温を記入  
(日陰で測定)

調査時間を記入  
短時間の場合、「短」にチェック

オス・メス、吸蜜植物、利用した  
食草、産卵、幼虫の確認、初見・  
終見などを適宜記録

調査開始時の天候を記入  
晴の時には雲の割合(%)を記入

## 庭のチョウ類調査 記録シート

調査期間 2014年 3月 ~ 5月 場所 庭・その他( )

日付	4/10	4/20	5/5	5/12	5/25
時間	10:00~10:30・短	: ~ :・短	: ~ :・短	: ~ :・短	: ~ :・短
天候	快晴・晴・曇(雲%)	快晴・晴・曇(雲30%)	快晴・晴・曇(雲%)	快晴・晴・曇(雲50%)	快晴・晴・曇(雲%)
温度	20℃	℃	18℃	20℃	22℃
1 種名	1・1・2 1 2♂ 初見日 タンポポで吸蜜	0・ ・	2・ ・ 1♂1♀ ツツジで吸蜜 サンショウへの産卵確認	2・1・ ・ ♂♀不明	1・3・1 ・ 1♂1♀1不明 幼虫2匹確認(サンショウ)
2 種名	1・2・ ・ 2♂ 初見日	1・ ・	1・1・ ・ 1♀ カタバミへの産卵確認	2・4・3 ・ 2♂2♀ カタバミ・シロツメクサ で吸蜜	1・2・1 ・ 1♂1♀ぐらい カタバミで卵と幼虫確認
3 種名	・ ・	・ ・	1・1・ ・ 1♂ すぐに飛んでいった	0・ ・	3・1・3 ・ 2♂1♀ バンジー付近への産卵確認
種名	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・

※3月のデータは省略

月ごとに最大の目撃個体数に  
○をつけ、転記

種名の順番は、自由で  
かまいません

## 庭のチョウ類調査 集計シート

氏名 庭野花子

調査期間 2014年 3月 20日 ~ 2014年 12月 25日

最終的に種ごとに  
集計シートに  
まとめて転記する

No.	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	初見日	終見日	庭で発生	吸蜜植物など
1	アゲハ			0	2	3	3	2	3	1	1	0	0	4/10	10/25	○ サンショウ カラタチ	ツツジ、 ヒメジョオン、 ブッドレア
2	ヤマトシジミ			0	2	4	4	1	2	2	3	1	0	4/10	11/20	○ カタバミ	カタバミ、 シロツメクサ、 マリーゴールド
3	ツマグロヒョウモン			0	0	3	0	2	0	3	1	0	0	5/5	10/10	○ バンジー	ヒメジョオン、 キバナコスモス、 オカトラノオ、 オミナエシ、ブッドレア

調査開始時の天候を記入  
晴の時には雲の割合(%)を記入

調査開始時の気温を記入  
(日陰で測定)

観察した個体数の数字を  
順々に記入する

オス・メス、吸蜜植物、利用した  
食草、産卵、幼虫の確認、初見・  
終見などを適宜記録

庭での発生を確認した  
場合○をつけ、利用し  
た食草を記入





# 庭のチョウ類調査 参加シート

※調査地が複数の場合は、調査地ごとに記入の上、提出をお願いします。

## 【基本事項】

[お名前 (漢字)]		[お名前 (ふりがな)]	
[性別] 男 ・ 女	[年齢] 才	[チョウ類保全協会] 会員 ・ 非会員	
[住所] 〒			
[TEL]		[E-mail]	

## 【調査頻度 (当初の予定)】

[調査頻度]  毎日～2,3日に一度  週に1回程度  月に2回程度  月に1回程度  
 時々時間のあるときに実施  その他 ( )

## 【調査場所の基礎情報】

[調査場所]  自宅の庭・ベランダ  校庭  公園  神社  寺  河川敷  その他 ( )

[調査地の名称 (自宅の庭以外に記入)]

[調査地の住所 (不明の場合は字名まで)]

[お庭のタイプ]  1階の地面  ベランダ  バルコニー  屋上庭園  
 その他 ( )

[お庭の面積] (記入例：3坪、10m×2m など)

[お庭の緑 (複数選択可)]  芝生などの草地  庭木 (疎・生け垣)  庭木 (ややまとまった樹林)  
 花壇・プランター  家庭菜園  水場  小川  その他 ( )

[お庭の緑の割合・面積]  ほぼ全体  半分程度  一部分  
 ⇒ 面積 \_\_\_\_\_ × \_\_\_\_\_ (記入例：10m×2m)

[チョウのために]  吸蜜植物を植えている  食草を植えている  特にしていない

[庭にある吸蜜植物] チョウのために植えた植物に○をつける (例)○ブッドレア

[庭にあるチョウの食草] チョウのために植えた植物に○をつける

[庭にある上記以外の主な草木]

[お庭の日当たり]  日当たりが良い  日当たりが悪い  一部分日当たりが悪い

[殺虫剤・除草剤の使用]  よく利用する  時々利用する  利用しない

## 【庭の周辺環境】

[庭のある地域]  都市部の住宅地  郊外の住宅地  農村  山村  その他 ( )

[庭の周囲の環境]  住宅地が密集  住宅地だが、農地が散在  住宅地だが、公園の近所  
 農地が広がる  農地や樹林が広がる  雑木林  河川の周囲  その他 ( )

[一番近い緑地 (複数選択可)]  公園  農地  神社・寺院  雑木林  河川  
 その他 ( )



庭のチョウ類調査 記録シート

調査期間 年 月 ～ 月 場所 庭・その他( ) No.

日付 時間	／ ： ～ ： ： 晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)	／ ： ～ ： ： 晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)	／ ： ～ ： ： 晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)	／ ： ～ ： ： 晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)	／ ： ～ ： ： 晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)	／ ： ～ ： ： 晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)
天候	快晴・晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)	快晴・晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)	快晴・晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)	快晴・晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)	快晴・晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)	快晴・晴・曇 (雲 %) 快晴・晴・曇 (雲 %)
温度	℃	℃	℃	℃	℃	℃
種名	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・
1						
種名	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・
2						
種名	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・
3						
種名	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・
4						
種名	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・
5						
種名	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・
6						
種名	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・
7						
種名	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・

調査期間

年

月

日 ~

年

月

日

No. \_\_\_\_\_

No.	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	初見日	終見日	庭で発生	吸蜜植物など
1														/	/		
2														/	/		
3														/	/		
4														/	/		
5														/	/		
6														/	/		
7														/	/		
8														/	/		
9														/	/		
10														/	/		
11														/	/		
12														/	/		
13														/	/		
14														/	/		
15														/	/		



# 庭でもっとも見られるチョウは？

日本全国の庭で、もっとも普通に見られるチョウは何でしょうか。また、ひとつの庭で、どれぐらいの種類のチョウが見られるのでしょうか。

日本での庭のチョウ類の調査は、日本鱗翅学会によって1997～2002年に行われた例があります（石井，2003）。この折には、全国107カ所で庭の調査が行われました。

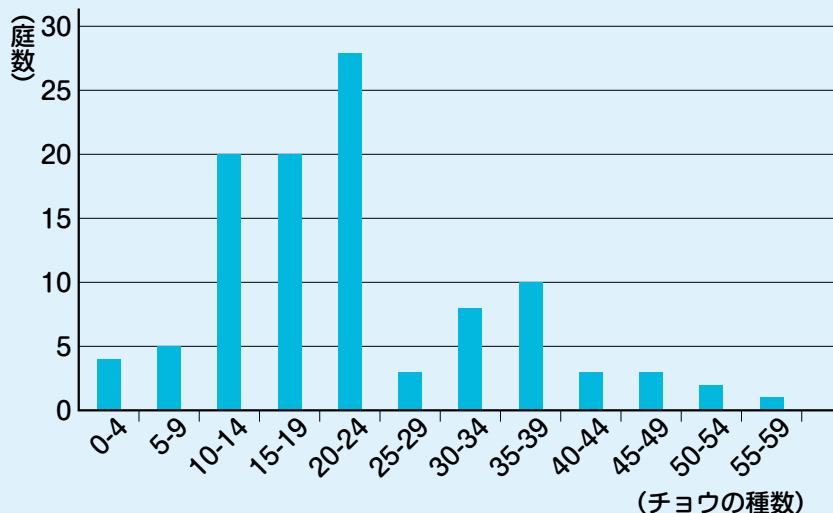
## 庭のチョウランキング

上記の調査で、高い割合で見られたチョウを並べてみました。調査地は必ずしも、全国各地に散らばっていたわけではありませんが、ここに並んだ顔ぶれは、日本でもっとも身近なチョウだといえるでしょう。



## 庭で見られるチョウの種数

107の庭で、見られたチョウの種数がどれぐらいかをまとめてみました。20～24種みられた庭が、28カ所と多く、全体の平均も22種でした。全国的にみると、10～25種ぐらいのチョウが見られる庭が多いようです。



自然環境が変化する中で、庭のチョウの顔ぶれも、全国的に変化してゆく可能性があります。実際に、ナガサキアゲハやツマグロヒョウモンなどは、地球温暖化等が原因で、わずか数十年で日本列島を劇的に北上していきました。

庭のチョウ類調査では、多くの方のご参加をいただくことで、チョウを通して、自然環境の変化を継続して明らかにしようとしています。身近なチョウから自然環境の変化を調べる輪に、ぜひご参加ください。

出典：石井実（2003）庭のチョウのモニタリング調査1997～2002年の結果。「日本産蝶類の衰亡と保護 第5集」, p225～242.

## 第4章 庭から生物多様性を考える

## 庭からつなげる生物多様性保全

最近、「生物多様性」という言葉がキーワードとして使われることが多くなってきました。一見、難しそうに思える言葉ですが、さまざまな種類の生きものが、多様な自然環境に生きていることを意味しています。人々が利用する食べ物や衣類から、きれいな空気や水に至るまで、生物多様性は人々に多くの恩恵を与えています。

ここでは、身近な庭から始められる、生きもののすむ庭づくりと、生物多様性の保全とのつながりについて考えてみます。

## ① 庭の生きものは、生物のつながりを支えています

たとえば、鳥が庭を訪れ、餌を探してはついばむ姿をしばしば見かけます。何もいないように見えても、庭木ではチョウやガの幼虫が育ち、あるいは木々の実を求めて、鳥たちはやってきます。鳥は近隣の庭や公園を、広く渡り歩いて生活しています。このように、庭の生きものは、庭の中でつながりあっているだけでなく、周辺を含めたもっと広い環境とのつながりをもっています。

小さな庭が、生きものたちのつながりを支えているのです。

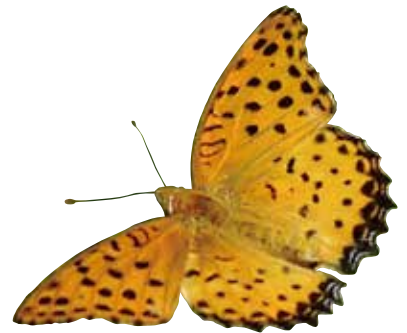
## ② 庭の緑地がネットワークのようにつながることで、多くの生物が生きてゆくことができます

それぞれの住宅の庭は、緑地としてみれば小さくささやかなものですが、その小さな庭のひとつひとつが近所どうしで何軒もつながっていれば、生きものにとってはより大きな緑地となります。

たとえば、都会の庭でも姿が見られるアゲハの場合、ある庭では幼虫が徹底して鳥に食べられてしまっても、別の庭では生き残り、成虫になることもあるでしょう。アゲハが成虫になれるかどうかは、環境や天敵の影響の大きさ、あるいは人間の管理方法によって左右され、その時々で庭ごとに異なります。そして、生き残ったアゲハは他の庭へと飛んでゆき、あちこちで産卵します。

このように、アゲハは発生する庭がひとつでなく、多くの庭がネットワークでつながっているからこそ、ずっと生き続けることができます。他の多くの生きものにとっても、このようなつながりが、生きてゆくためにたいへん重要です。

生きもののすむ庭づくりの輪が広がることで、より多くの生きものが、安定してすめるようになるのです。



## ③ 絶滅が危惧される生きものが庭にすんでいることもあります

多くの生きものが絶滅の危機に瀕しており、それを守ることは、社会的に大きな課題となっています。庭にすむ生きものは、そのほとんどが、広く生息している種類ですが、地域によっては次ページのように、絶滅の危機にある生きものが見られることもあります。

絶滅の危機にある生きものをまとめた本は「レッドデータブック」、そのリストは「レッドリスト」と呼ばれ、環境省や各都道府県で発行されています。これらは、絶滅の危機にある生きものの現状を知る上での参考書となります。

## ④ 庭の生きものから、自然環境の現状を知ることができます

生物多様性を守っていくためには、日本の自然や生きものたちがどのようになっているのかを、十分に把握することが必要です。なかでもチョウは、自然環境の変化にいち早く反応するため、生物多様性の指標としてふさわしいことが知られています。つまり、チョウが減っていることは、これからさらに多くの生きものが減る前兆なのです。

環境の変化を自分の目で知り、生物多様性を守る「確かな目」は、身近な庭からも生まれます。庭のチョウ類調査に、あなたも参加してみませんか。



# 庭にもすむ貴重なチョウ

絶滅の危機にあるチョウ（36 ページ参照）の多くは、限られた場所でしか姿が見られなくなっていますが、時にはそうした種類が庭で見られる場合もあります。ここでは代表的な2種をご紹介します。

## チョウセンアカシジミ **環境省レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類**

日本では、岩手、山形、新潟の3県にしか生息していない、かなり珍しいチョウです。幼虫はトネリコを食べます。トネリコは、本来は湿地に生えますが、山形県では人家の生垣として利用されている場合があり、チョウセンアカシジミが長年にわたって世代を繰り返してきました。

周囲の湿地などの開発が進んだ現在、庭はこのチョウの重要な生息地となっており、守る活動が広がっています。



生垣に生えるトネリコ



トネリコを食べる幼虫



成虫



町の所々に生えるトネリコ

## クロツバメシジミ **環境省レッドリスト 準絶滅危惧**

本州、四国、九州に生息しますが、とても生息地が局地的です。幼虫は、ツメレンゲなどの多肉植物を食べています。ツメレンゲは山地あるいは海岸の崖、河川敷などの岩場や石組みに生え、クロツバメシジミもこうした環境に見られるのですが、古い人家の石垣や屋根が重要な生息地となっている場合もあります。

最近では古い石垣が取り壊されることも多くなっており、このチョウも次第に減少しつつあります。



クロツバメシジミの発生する古い石垣



びっしり生えるツメレンゲ



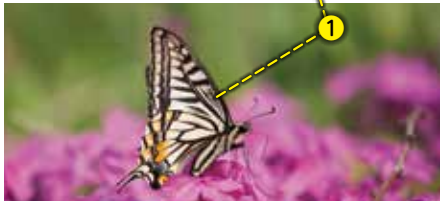
ツメレンゲを食べる幼虫



産卵する成虫



## 第5章 庭でよく見られるチョウ——成虫編



### アゲハ

【識別】キアゲハと類似するが、①が黒い線状となる【分布】北・本・四・九・南【時期】4～10月（多化性）【食草】サンショウやカラタチなどのミカン類各種【生息環境】人家や農地周辺、伐採地などのミカン類やサンショウが生える場所  
⑤ミカン類を明るい場所に植えると発生する



### カラスアゲハ

【識別】表が青緑色に輝く。類似種にミヤマカラスアゲハがいる【分布】北・本・四・九【時期】4～9月（多化性）【食草】サンショウ、カラスザンショウ、コクサギなど【生息環境】人家、公園、森林などの樹林地やその周辺  
⑤樹木が茂った環境を好むため、食草の他、庭木を多く植える



### ジャコウアゲハ

【識別】細長いシルエット。オナガアゲハに類似するが、体の側面が赤色【分布】本・四・九・南【時期】4～9月（多化性）【食草】ウマノスズクサ、オオバウマノスズクサなど【生息環境】河川堤防や農地周辺の草地や森林の林縁部など  
⑤食草を植えると、飛来して発生することが多い



### キアゲハ

【識別】アゲハで示した点の他、地色はアゲハより黄色みが強い【分布】北・本・四・九【時期】4～10月（多化性）【食草】セリ、ミツバ、ニンジン、パセリほか【生息環境】平地～山地の明るい草原や湿地、樹林脇の草地  
⑤パセリやニンジンなどを明るい場所に植えると発生する



### ナガサキアゲハ

【識別】オスは全体が黒色、メスは後翅を中心に白い斑紋。裏面基部の赤斑①が特徴【分布】本・四・九・南【時期】5～9月（多化性）【食草】ナツミカン、ユズ、カラタチなどのミカン類【生息環境】農地、人家などのミカン類の植栽場所  
⑤栽培ミカン類を好み、植えると発生しやすい



### アオスジアゲハ

【識別】翅の中央の水色の帯が特徴。類似種のミカドアゲハはこの帯の外側に斑点が並ぶ【分布】本・四・九・南【時期】5～10月（多化性）【食草】クスノキ、タブノキ、ゲッケイジュなど【生息環境】都市の街路樹や公園、森林などの樹林周囲  
⑤クスノキを植栽し、定期的に剪定する



### クロアゲハ

【識別】全体が黒色で、オスは後翅表の①に白い斑紋【分布】本・四・九・南【時期】4～10月（多化性）【食草】ミカン類、ユズ、カラタチ、キンカンなど【生息環境】人家、公園、森林などの樹林地やその周辺  
⑤産卵には樹木が茂ったやや暗い環境を好むため、庭木を多く植える



### モンキアゲハ

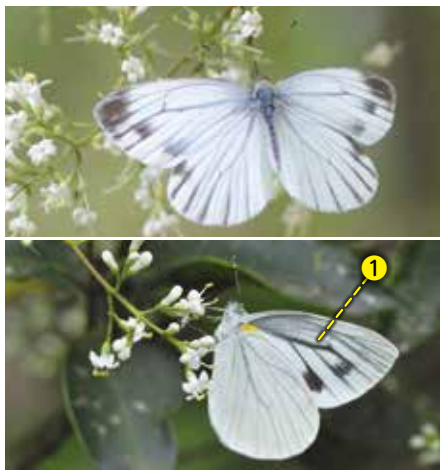
【識別】全体が黒色で、後翅中央に大きな白斑があるのが特徴【分布】本・四・九・南【時期】5～9月（多化性）【食草】カラスザンショウ、ハマセンダン、栽培ミカン類【生息環境】農地、森林などの樹林周囲やミカン類の植栽地  
⑤カラスザンショウを好み、植えると発生しやすい



### モンシロチョウ

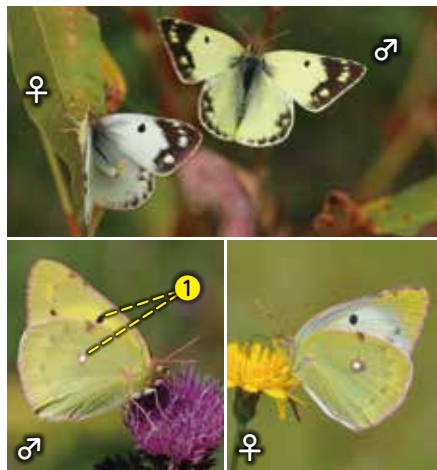
【識別】スジグロシロチョウなどと類似するが翅脈が黒くならない【分布】北・本・四・九・南【時期】3～11月（多化性）【食草】キャベツ、アブラナ類、イヌガラシなど【生息環境】キャベツ畑や都市部の公園、人家周辺など  
⑤キャベツやハボタンなどの食草を植えると容易に発生する





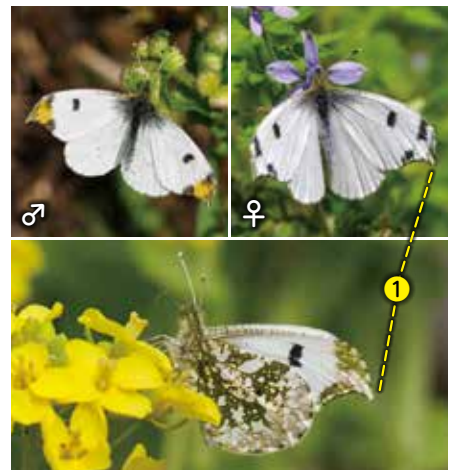
### ♣ スジグロシロチョウ

【識別】 モンシロチョウとは特に翅脈①の黒色で区別しやすい【分布】 北・本・四・九【時期】 4～10月（多化性）【食草】 イヌガラシ、タネツケバナ、アブラナ類【生息環境】 平地の都市部の公園から山地までの森林 ⑤樹林環境を好むため、庭木を多く植え、食草を植える



### ♣ モンキチョウ

【識別】 表は黒い縁取りと黒い斑点があり、裏は2つの斑点①が目立つ【分布】 北・本・四・九・南【時期】 3～11月（多化性）【食草】 シロツメクサ、レンゲソウなど【生息環境】 都市部、農地、河川周囲のやや広い草地 ⑤明るい場所に生えるシロツメクサやレンゲソウを除草せず残す



### ♣ ツマキチョウ

【識別】 前翅がカギ状に尖り①、黒い斑点、裏は雲状の模様【分布】 北・本・四・九【時期】 4～5月（年1化）【食草】 イヌガラシ、ショウカツサイ、セイヨウカラシナなどのアブラナ類【生息環境】 森林、農地、都市部の樹林周囲の草地 ⑤樹林環境を好むため、庭木とともに食草を植える



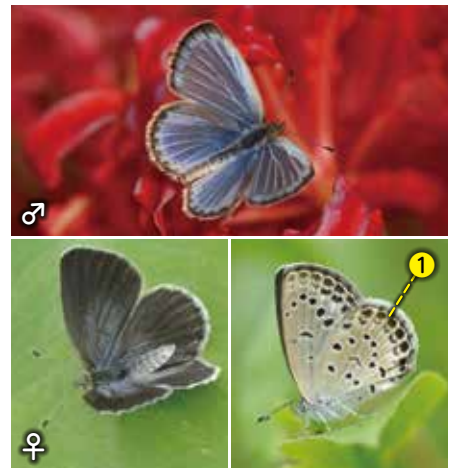
### ♣ キタキチョウ

【識別】 全体が黄色で、表は黒い縁取り、裏はぼやけた黒点がある【分布】 本・四・九・南【時期】 3～11月（多化性）【食草】 ハギ類、ネムノキ、ギンヨウアカシアなど【生息環境】 都市、農地、森林などの樹林周辺。庭のしげみで成虫が越冬することも多い ⑤食草を植えると発生しやすい



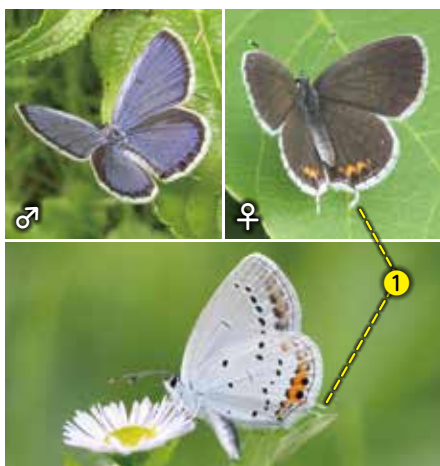
### ♣ ベニシジミ

【識別】 橙色の斑紋が特徴。夏型は表の橙色①が狭くなる【分布】 北・本・四・九【時期】 3月下旬～11月（多化性）【食草】 スイバ、ギシギシなど【生息環境】 農地や公園などの明るい草地 ⑤明るい草地を好むため残し、スイバやギシギシは雑草の代表だが年数回の刈り取りで対応



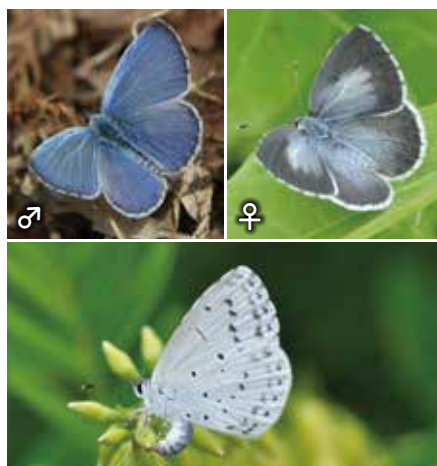
### ♣ ヤマトシジミ

【識別】 オスの表は白味を帯びた青色だが、メスは黒色部が広い。裏面の黒点列①は明瞭【分布】 本・四・九・南【時期】 4～11月（多化性）【食草】 カタバミ【生息環境】 人家や都市、公園、農地などの道端や草地 ⑤通路の脇などの明るい場所に生えるカタバミを間引き程度にして残す



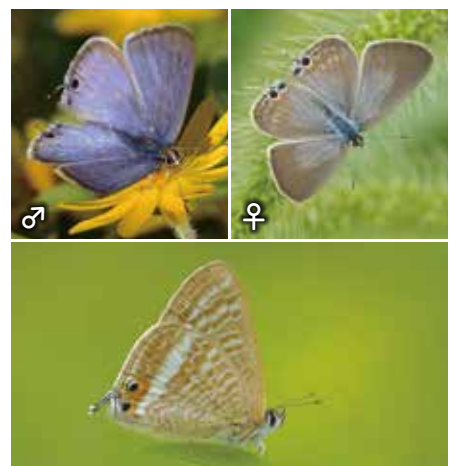
### ♣ ツバメシジミ

【識別】 尾状突起①があり、裏面に橙色の斑紋がある【分布】 北・本・四・九【時期】 4～10月（多化性）【食草】 シロツメクサ、ハギ類、レンゲソウなどの各種マメ科【生息環境】 公園や農地、河川堤防周辺などの明るい草地 ⑤草地を広げにし、シロツメクサやレンゲソウを除草せず残す



### ♣ ルリシジミ

【識別】 オスは表のルリ色が特徴。類似した種とは、裏面の模様で識別【分布】 北・本・四・九【時期】 3月下旬～10月（多化性）【食草】 ヤマハギ、フジ、クララ、イタドリなど【生息環境】 都市の公園、農地周辺から山地の森林まで幅広い ⑤ハギ類やフジなどを植えると発生しやすい



### ♣ ウラナシジミ

【識別】 裏は波状の模様。尾状突起はやや長い【分布】 北・本・四・九・南【時期】 7～11月。暖地で越冬し、世代を繰り返しながら北上する【食草】 エンドウ、インゲンなどの栽培マメ類やヤマハギ、クズなど【生息環境】 農地、公園、都市など各地 ⑤食草を植えると発生しやすい





🦋 **ムラサキシジミ**

【識別】表の青紫色と、裏の不明瞭な斑紋が特徴。類似のムラサキツバメは尾状突起がある【分布】本・四・九・南【時期】4～11月（多化性）【食草】アラカシ、コナラ、クヌギなど【生息環境】森林、公園、人家周辺 🌞生垣にアラカシを使用すると新葉を利用して発生することが多い



🦋 **ルリタテハ**

【識別】表のルリ色の帯が特徴【分布】北・本・四・九・南【時期】4,6,8,10月頃（多化性）【食草】サルトリイバラ、ホトトギス、ヤマユリなど【生息環境】都市の公園や雑木林などの樹林周囲 🌞ホトトギスを庭木の脇のやや暗い場所に植えると発生しやすい。カキの実にもよく集まる



🦋 **コムスジ**

【識別】表は黒色に複数の白帯がある。都市部に類似のホシミスジが生息する地域もある【分布】北・本・四・九【時期】5～9月（多化性）【食草】フジ、クズ、ニセアカシア、ハギ類などの各種マメ科【生息環境】雑木林、公園、農地周辺など 🌞フジなどの食草を植えることで発生する



🦋 **ウラギンシジミ**

【識別】裏は一面銀色。表は、オスに赤橙色、メスに白色の斑紋がある【分布】本・四・九・南【時期】4～11月（多化性）【食草】クズ、フジ、ハリエンジュなど【生息環境】樹林地や樹林の多い公園や人家など 🌞柿の実があると秋に成虫がよく集まり、常緑樹の植え込みで成虫越冬する



🦋 **アカタテハ**

【識別】表の赤色の模様の特徴。ヒメアカタテハと比べ、赤色の部分が少ない【分布】北・本・四・九・南【時期】4～10月（多化性）【食草】カラムシ、イラクサなど【生息環境】公園や農地、河川堤防などの明るい草地 🌞カラムシを植えるとともに、花壇を充実させると吸蜜に来る



🦋 **ツマグロヒョウモン**

【識別】後翅表の縁の黒帯と裏面の模様が特徴。メスは表の縁が黒い【分布】本・四・九・南【時期】4～11月（多化性）【食草】パンジーや各種スミレ類【生息環境】人家や公園、農地周辺などの明るい草原 🌞パンジーやビオラなどのスミレの園芸種の花壇をつくると、発生しやすい



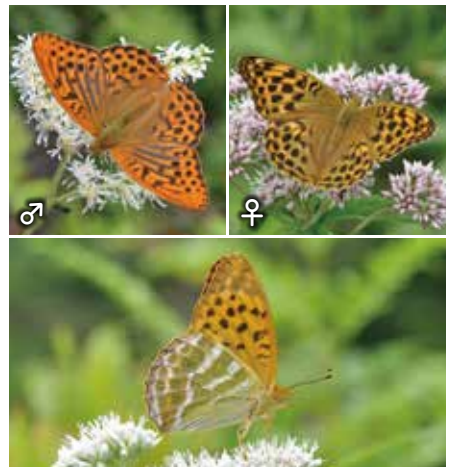
🦋 **キタテハ**

【識別】表がオレンジ色で黒い斑点があり、裏側は茶色の特徴的な斑紋【分布】本・四・九【時期】3～11月（多化性）【食草】カナムグラ、カラハナソウなど【生息環境】公園や農地、河川堤防などの明るい草地 🌞秋の花壇や柿の実に吸蜜に来る。カナムグラは繁殖力が強く庭には不適



🦋 **ヒメアカタテハ**

【識別】表の赤色は桃色を帯びる。裏の地色はアカタテハより明るい【分布】北・本・四・九・南【時期】4～10月（多化性）【食草】ハハコグサ、ヨモギなど【生息環境】公園や農地、河川堤防などの明るい草地 🌞ヨモギは年に数回刈りこみ、ハハコグサは除草せず残すとしばしば発生する



🦋 **ミドリヒョウモン**

【識別】類似種が多く表での識別は難しい。後翅裏面の3本の白帯が特徴【分布】北・本・四・九【時期】6～9月（年1化、夏は夏眠）【食草】タチツボスミレなどの各種スミレ類【生息環境】樹林周囲の草地 🌞秋になると移動するようになり、ブッドレアや花壇の花によく集まる





### ゴマダラチョウ

【識別】 黒色に白い斑紋がある。春型は次種と類似するが、黒色部が広い【分布】 北・本・四・九【時期】 5～9月（多化性）【食草】 エノキ、エゾエノキなど【生息環境】 樹林地で、公園や人家などの小規模な樹林にも生息する ⑤ エノキを植えると発生しやすい。冬に根元の落ち葉を残す



### アカボシゴマダラ 要注意外来生物

【識別】 後翅の赤い斑紋が特徴。春型は白色になる【分布】 本（関東地方から各地に広がる）【時期】 5～9月（多化性）【食草】 エノキ【生息環境】 都市部～森林域【外来種に注意】 大陸から人為的に持ち込まれた外来種で、要注意外来生物に指定されており、発見した場合には駆除が必要である



### アサギマダラ

【分布】 北・本・四・九・南【時期】 5～10月（多化性）暖地で越冬し、春に北上、秋に南下する【食草】 キジョラン、イケマなど【生息環境】 海岸付近から山地の森林域まで広い ⑤ 成虫はフジバカマ、ヒヨドリバナなどによく集まるため、これらを植えると移動中に訪れる頻度が高くなる



### ヒメウラナミジャンノメ

【識別】 後翅の裏の5つの目玉模様と波状の模様が特徴【分布】 北・本・四・九【時期】 5～9月（多化性）【食草】 ススキ、チガヤ、メヒシバなど【生息環境】 農地、林縁、河川等の樹林周辺の草地 ⑤ 都市部では少ないチョウだが、自然が豊かな場所では、除草を徹底しなければ発生する



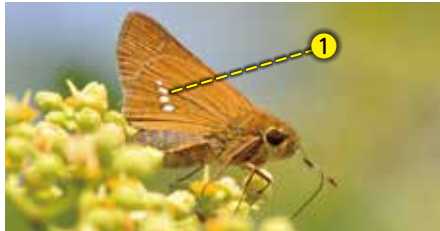
### ヒメジャンノメ

【識別】 裏は、目玉模様に白帯がある。類似種コジャンノメよりも地色が明るい【分布】 北・本・四・九【時期】 5～9月（多化性）【食草】 イネ、チガヤ、ススキなど【生息環境】 農地、河川、樹林周囲の草地 ⑤ やや暗い場所を好むため、庭木を多く植え、除草を徹底せずイネ科の植物を残す



### サトキマダラヒカゲ

【識別】 裏は多くの目玉模様と特徴的な濃淡の模様が特徴【分布】 北・本・四・九【時期】 5～6月と8～9月（多化性）【食草】 マダケ、アズマネザサなどのタケ・ササ類【生息環境】 雑木林などの森林。樹林が多い公園にも生息 ⑤ 樹液の出るクヌギやコナラなどを植えると集まることがある



### イチモンジセセリ

【識別】 類似種が多いが、後翅裏の4つの白点①が一列に並ぶ【分布】 北・本・四・九・南【時期】 5～11月（多化性）。暖地で越冬し、世代を繰り返しながら北上【食草】 イネ、チガヤなどの各種イネ科【生息環境】 都市、公園、農地などの草地 ⑤ 秋に個体数が増加し、花壇に多数が集まる



### チャパネセセリ

【識別】 後翅裏は、小さい白斑が弧状に並ぶ【分布】 本・四・九・南【時期】 5～11月（多化性）。暖地で越冬し、世代を繰り返しながら北上【食草】 イネ、チガヤ、ススキなどの各種イネ科【生息環境】 都市、公園、農地などの草地 ⑤ 花壇によく訪れる。秋に増加するが、個体数はやや少ない



### ダイモウセセリ

【識別】 前翅表の白い斑紋が特徴。近畿以西では、後翅表にも白帯【分布】 北・本・四・九【時期】 5,7,9月頃（多化性）【食草】 ヤマノイモ、ナガイモなど【生息環境】 樹林周囲の林縁環境を好み、森林や公園、人家周辺でみられる ⑤ 庭木を多く植え、その周囲にヤマノイモを除草せず残す



## 第5章 庭でよく見られるチョウ——卵・幼虫・蛹編

### アゲハ

❄️越冬態：蛹



カラタチ (写真)、サンショウ、ナツミカン、ユズ、栽培種のみかん類など (ミカン科)



産卵場所：食草の若葉、新芽の上。形状・色：ほぼ球形 (直径1.2mm)。産卵直後は淡黄色→黄橙色へ変化



4 齢まで：鳥の糞状 (上)。5 齢 (終齢)：淡緑色で体長約 50mm (下)。類似種との識別⇒ 35 頁



褐色と緑色の 2 型あり。類似種との識別⇒ 35 頁

### キアゲハ

❄️越冬態：蛹



ニンジン、ミツバ、パセリ、フェンネル、セリ、ハナウド (写真) など (セリ科)



産卵場所：食草の葉裏、花穂。形状・色：ほぼ球形 (直径1.2mm)。産卵直後は乳白色→褐色斑紋が出現



1 齢：ほぼ黒色。2-3 齢 (上)：黒と橙のまだら模様で中央が白色。4 齢以降 (下)：黄緑と黒の縞模様



食草から離れて蛹化。緑色系と褐色系 (写真) の 2 タイプ

### クロアゲハ

❄️越冬態：蛹



カラサザンショウ (写真)、ハマセンダン、栽培種の各種みかん類、カラタチなど (ミカン科)



産卵場所：食草の葉裏。形状・色：アゲハと色はほぼ同一。直径はやや大



4 齢まで：アゲハよりも滑らかでつやがある。終齢：濃緑色で体長約 55mm。類似種との識別⇒ 35 頁



近縁種同様、緑色系と褐色系 (写真) の 2 タイプ。体長 30-35mm。類似種との識別⇒ 35 頁

### ジャコウアゲハ

❄️越冬態：蛹



ウマノスズクサ (写真)、オオバウマノスズクサなど (ウマノスズクサ科)



産卵場所：食草の葉裏。卵塊も作る。形状・色：擬宝珠状 (高さ1.6mm)。橙色



多くの突起があり、終齢 (下) では黒地に白い斜帯、赤い斑点。体長約 40mm



別名「お菊虫」。春～秋は黄色だが越冬するものは灰褐色。体長約 30mm



**アオスジアゲハ**

❄️越冬態：蛹



クスノキ (写真)、ゲッケイジュ、タブノキ、ヤブニッケイ、シロダモなど (クスノキ科)



産卵場所：食草の新芽、茎など。形状・色：球形 (直径 1.3mm) で産卵直後は乳白色→赤・褐色紋出現



4 齢まで (上)：胸部に複数の突起。終齢 (下)：細い黄色帯の両側が突き出す、体長約 40mm



食草の葉裏、もしくは食草以外の人工物上。色：緑色 (写真) と褐色系の 2 タイプ。体長約 30mm

**スジグロシロチョウ**

❄️越冬態：蛹



イヌガラシ (写真)、タネツケバナ、ハタザオ類、ワサビ、アブラナ類など (アブラナ科)。野生種を好む



産卵場所：食草の葉裏や花穂など。形状・色：ペットボトル型。高さ 1.3mm。乳白色→淡黄色



緑色でやや青味を帯びる。気門に 1 つずつの黄色線があり、背面の細毛は黒色 (囲み)。体長は約 30mm



概ね食草茎上で蛹化。緑色と褐色系の 2 タイプ。モンシロチョウに比較して胸背部などの突起が発達

**モンシロチョウ**

❄️越冬態：蛹



キャベツ (上)、ハボタン、アブラナ類、マメグンバイナズナ (下) など (アブラナ科)。栽培種を好む



産卵場所：食草の葉裏や花穂など。形状・色：淡黄白色砲弾型→橙色 (囲み)。高さ 1mm、直径 0.5mm



明るい緑色。気門線上に黄色線が 2 つずつで背面の微毛はほぼ無色 (囲み)。終齢の体長は約 30mm



キャベツなどでは葉裏、軒下などの人工物上。緑色系と褐色系の 2 タイプ。体長約 25mm

**モンキチョウ**

❄️越冬態：幼虫



アカツメクサ (上)、シロツメクサ (下)、レンゲソウ、カラスノエンドウなど (マメ科)



産卵場所：主として食草の葉表。形状・色：紡錘型。高さ 1.3mm。白 (産卵直後) →黄→暗赤褐色



終齢幼虫は緑色 (上)。側面の黄白色の線が目立つ。体長約 30mm。下は蛹になる直前の前蛹



食草上、もしくは食草外で蛹化。淡緑色で体長約 25mm



**ツマキチョウ**

❄️越冬態：蛹



ショウカツサイ、セイヨウカラシナ、イヌガラシ (写真)、ナズナ、ハタザオなど (アブラナ科)

産卵場所：花柄部を中心に茎や新葉の裏。形状・色：淡黄白色紡錘形→橙色 (囲み)。高さ1mm



1～2 齢：(上：1 齢) は淡黄褐色。3～5 齢 (下：5 齢)：食草に似た緑色。終齢の体長は約 25mm

食草を離れて草本類の茎や人工物上で帯蛹。淡～濃褐色。体長約 25mm

**キタキチョウ**

❄️越冬態：成虫



メドハギ (上)、ギンヨウアカシア、ヤマハギなどのハギ類、ネムノキ、ハリエンジュなど (マメ科)

産卵場所：食草の葉上。形状・色：白色紡錘形。高さ 1.5mm、直径 0.5mm



若齢 (上：2 齢)：青虫状。4 齢 (下)～5 齢 (終齢)：食草の葉に似た緑色。終齢の体長は約 30mm

食草の茎で帯蛹。淡緑色。体長約 20mm

**ベニシジミ**

❄️越冬態：幼虫



スイバ、ギシギシ (写真)、ヒメスイバなど (タデ科)

産卵場所：食草根元付近の茎や葉など。形状・色：灰白色。直径 0.65mm、高さ 0.35mm



食草の葉裏などに潜む。緑色 (上) と紅色を帯びたもの (下) の 2 型あり。体長約 15mm

食草の根際や枯葉などで蛹化

**ヤマトシジミ**

❄️越冬態：幼虫



カタバミ (カタバミ科)

産卵場所：食草の葉裏。形状・色：白色。直径 0.5mm、高さ 0.25mm



淡緑色 (写真) もしくは紫紅色。葉を裏から舐めるように食べる。体長約 12mm

食草根際や地上の砂礫などで蛹化。体長約 9mm。黄緑色型 (写真) と淡褐色型あり



**ルリシジミ**



フジ、ハギ類 (写真)、クズ、クララ (マメ科)、ミズキ (ミズキ科)、イタドリ (タデ科) など



体色は蕾・花穂の色に酷似。クズでは淡紫色 (写真)。体長約 13mm



フジ、クズ、ハギ種、クロヨナなど (マメ科)



ルリシジミ同様、体色は食草に酷似。若齢 (上)・終齢 (下) 共に腹端付近に一对の突起。体長 20mm

**越冬態：蛹**



産卵場所：食草・食草の蕾・花穂。形状・色：青白色。直径 0.6mm、高さ 0.3mm



食草の根際付近の枯葉などで蛹化。体長約 10mm



産卵場所：蕾・花・新芽など。形状：直径約 1mm



食草の葉表で蛹化。緑色で背面に白色スパー型の模様。写真は羽化直前

**ムラサキシジミ**



アラカシ (写真)、コナラ、クヌギ、カシワ、イチイガシ、ウラジロカシなど (ブナ科)



若齢は葉裏に潜む。3-4 齢は造巢性があり、アリが随伴することが多い。体長約 18mm



園芸種のパンジー (写真) やビオラ、各種スミレ類 (スミレ科)



体長約 42mm。黒地に鮮やかな赤橙色の背線・棘状突起が目立つ

**越冬態：成虫**



産卵場所：食草の新芽や休眠芽 (越冬後個体が利用)。形状：直径 0.8mm、高さ 0.4mm



食草の葉裏や地表の枯葉下で蛹化。体長約 10mm



産卵場所：食草周辺の枯茎、枯葉など。形状・色：直径・高さ共に 0.7mm。淡黄白色→褐色



金色の斑紋有り。蛹化場所：食草から離脱して他植物・人工物上。体長約 27mm

**ウラギンシジミ**

**越冬態：成虫**

**ツマグロヒョウモン**

**越冬態：幼虫**



**ヒメアカタテハ**

❄️越冬態：幼虫または成虫



ヨモギ (写真)、ハハコグサ、カワラヨモギ、シュンギク、ゴボウなど (キク科)



産卵場所：若葉の表。形状：直径・高さ共に約 0.6mm



終齢の体長約 40mm。上：3 齢、下：5 齢 (終齢)。袋状の巣 (食草写真矢印) を造り、内部に潜む



金色の斑紋有り。蛹化場所：巣から離脱し周辺で垂蛹。体長約 22mm

**コムスジ**

❄️越冬態：幼虫



フジ (写真)、ハギ類、クズ、ニセアカシア、ヤブマメなど (マメ科)



産卵場所：葉表の先端部。形状：直径約 0.7mm、高さ約 0.8mm



体長約 25mm。食草の中脈を切り、枯らした葉上に静止 (上・矢印)。時に威嚇姿勢 (下)



背面部に一对の金色斑紋有り。蛹化場所：葉裏で垂蛹。体長約 20mm

**アカボシゴマダラ (外来種)**

❄️越冬態：幼虫



エノキ (アサ科 (旧分類ニレ科))



産卵場所：葉表。形状：高さ、直径共に約 1.5mm



体長約 45mm。背面突起は 2 齢で一对。終齢で 4 対。類似種との識別⇒ 35 頁



蛹化場所：エノキの葉表、枝。体長約 34mm。類似種との識別⇒ 35 頁

**イチモンジセセリ**

❄️越冬態：幼虫



チガヤ、ススキ (写真)、オヒシバ、イネ、ネザサなど (イネ科)



産卵場所：食草の葉表、茎、食草以外の植物、石礫など。形状：直径 1mm、高さ 0.65mm



複数の葉を綴った巢内に潜む。体長約 33mm。チャバネセセリとの識別⇒ 35 頁



幼虫同様、巢内で蛹化。体長約 25mm。チャバネセセリとの識別⇒ 35 頁



## よく似た種類の識別ポイント

### ◆アゲハ (左)、クロアゲハ (中)、ナガサキアゲハ (右) の終齢幼虫・蛹の識別点



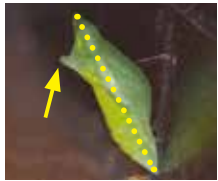
アゲハ：地色は明るい緑色。背面斜帯は緑色～青緑色 (矢印)



クロアゲハ：地色は濃緑色。斜帯は茶褐色 (矢印)



ナガサキアゲハ：地色は濃緑色。斜帯は白色 (緑色微小斑点あり) (矢印)



頭頂部と尾端部はほぼ直線上。背面は突き出す (矢印)



双耳状突起は短く、左右に大きく開く



頭頂部～尾端部は中央部で「くの字」状に曲がる



突起は長く、Vサイン程度に開く

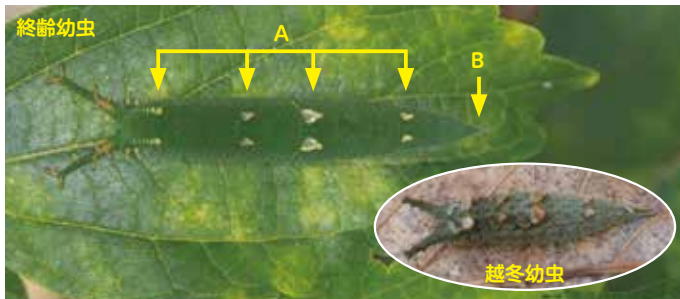


クロアゲハに類似

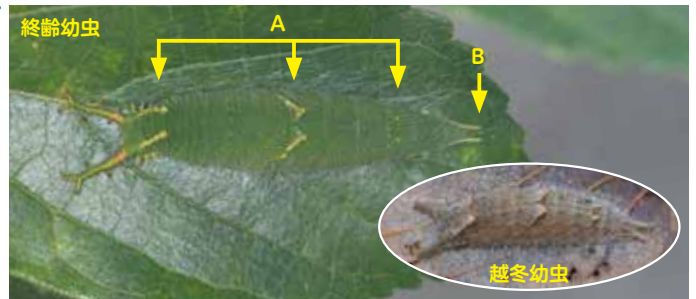


突起は長いが開かず、平行に近い

### ◆アカボシゴマダラ (外来種) (左) とゴマダラチョウ (右) の幼虫・蛹の識別点



アカボシ：背面突起は4対 (矢印A)。尾端突起対は閉じる (矢印B)



ゴマダラ：背面突起は3対 (矢印A)。尾端突起対は開く (矢印B)



終齢幼虫は、白く細い斜帯が顕著 (矢印C)。気門下に白色破線 (矢印D)



終齢幼虫は、気門下破線が顕著な黄色 (矢印D)



やや青味を帯びた緑色。背面突起はやや顕著 (矢印E)



鮮やかな緑色。腹部に黄色線あり (矢印F)。背面突起に黄色い縁取り

### ◆イチモンジセセリ (左) とチャバネセセリ (右) の卵・幼虫・蛹の識別点



イチモンジ：淡褐色



チャバネ：白色でイチモンジセセリより大



頭部は淡褐色に濃褐色～黒色の複雑な模様 (矢印)



頭部は緑色で赤褐色の「逆ハの字」模様 (矢印)



巣を造り、淡褐色。頭部は尖らない (矢印)



巣は造らず、淡緑色。頭部が尖る (矢印)



# 絶滅の危機にあるチョウを守る

近年の自然環境の大きな悪化とともに、多くの生きものが絶滅の危機に瀕しています。トキのような著名な種類ばかりでなく、チョウでも状況は同じで、多くの種が絶滅の危機にあります。日本チョウ類保全協会では、多様なチョウが息づく自然環境そのものを将来に残すことができるよう、絶滅の危機にあるチョウに重点を置きながら、調査や保全活動を行っています。

## 減少の著しいチョウたち

日本には、約 240 種のチョウが生息しています。しかし、そのうちの 70 種が国のレッドデータブックに掲載されており、全体の約 29% もの種が絶滅の恐れがあることが分かります。なかでも 25 種ほどは特に減少が著しく、絶滅の危機が大きくなっています。

チョウが減少した原因のほぼすべてに、人が大きく関係しています。道路や宅地、リゾート施設などの開発や植林などによる、生息環境そのものの破壊は目に見えて

分かりやすいですが、人々の生活の変化により、里山の環境が大きく変化したことも大きな要因です。さらに、海外から日本に持ち込まれた外来種が悪影響を与えたり、地球温暖化によって環境が変化していることも、近年、大きな問題になっています。

チョウを含めた多くの生きものは、現在でも環境の悪化による減少が続いており、このままでは将来、さらに多くの種が日本から姿を消すことが懸念されています。

## 現在、絶滅がもっとも危惧される種



**ヒョウモンモドキ**  
生息地の 98% で絶滅し、現在は広島県の一部に生息するだけとなった。湿地に生息する。



**オオウラギンヒョウモン**  
生息地の 95% で絶滅し、現在は山口県や九州の一部にわずかに残るだけとなった。広い草原に生息。



**ウスイロヒョウモンモドキ**  
生息地の 87% で絶滅し、現在は兵庫、岡山、鳥取各県の一部の草原にわずかに見られるだけとなった。



**オオルリシジミ**  
生息地の 83% で絶滅し、現在は長野、熊本、大分各県にわずかに生息するだけとなった。広い草原に生息。



**オガサワラシジミ**  
世界で小笠原諸島にのみ生息する。外来種のトカゲであるグリーンアノールによって食べられ、激減している。



**ツシマウラボシシジミ**  
日本では、対馬にのみ生息する。シカの増加によって環境が変化し、自然状態ではほぼいなくなってしまった。



**ヒメチャマダラセセリ**  
日本では、北海道のアポイ岳にのみ生息する。気候変動によって、生息できる環境が大きく減少している。



**ゴイシツバメシジミ**  
原生林に生息する。森林伐採や植林によって生息地が失われ、現在は熊本県の一部に見られるだけとなった。

## チョウを守る活動が広がっています

このような状況のなかで、チョウをシンボルに自然環境を守る活動が、全国各地で広がりつつあります。チョウを守る団体は全国で 80 以上にもなり、それぞれの団体では、チョウのすめる環境を維持するため、草刈りなどの整備を行ったり、チョウの状況を知るために調査を

続けているほか、普及・啓発のための観察会や各種イベントも実施しています。

それらの活動を受けて、地域的には一度減っていたチョウが再び増えるなどの、大きな成果が表れ始めています。



# 当協会へのご協力・ご支援をお願いします

- 美しいチョウが舞う自然を将来に残していくためには、多くの方々のご協力・ご支援が必要です。
- しかし、会の財政基盤が大きい現状では、十分な活動を進めることができていません。
  - みなさん、一人一人のご参加が、チョウを、自然環境を守る大きな一歩となります。
  - どなたでもご入会いただけます。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。
- 日本チョウ類保全協会では、少しでも多くのチョウや豊かな自然を守るため、地域の方々と協力をしながら、全国各地で保全の取り組みを進めています。

## 当協会の主な活動内容

### ◆チョウ類保全のための活動

- 調査、生息地の保全活動、政策提言、地域団体へのアドバイス、ほか

### ◆チョウ類保全に関する普及啓発活動

- チョウ類保全のガイドブック作成、シンポジウム・展示会・写真展・観察会の開催、ほか



ニュースレター（会誌）

## 当協会への入会方法

趣旨にご賛同いただける方なら、どなたでもご入会いただけます。

### ◆会員になると、

- ニュースレター（会誌）をお届けします（年2回）。
- 各種チョウ類保全の調査や保全活動、シンポジウムへのご案内をいたします。
- チョウ類保全に関する情報収集のお手伝いや保全に関するご相談を受け付けます。
- ご入会の際には、会費を郵便局の郵便振替口座やゆうちょ銀行よりご納入ください。
- 郵便振替をご利用の際には、会員種別、入会年度、氏名、住所、電話番号、E-mail等を、振替用紙へご記入くださるようお願いいたします。ゆうちょ銀行をご利用の際には、お手数ですがこれらの情報を、E-mailや郵便で別途おしらせください。
- 折り返し、ニュースレターをお送りいたします。なお、当協会の会計年度は、1月1日～12月31日です。

### ◆郵便振替口座

加入者名：特定非営利活動法人  
日本チョウ類保全協会  
口座番号 00190-9-608140

### ◆ゆうちょ銀行

店名：〇一九（ゼロイチキユウ）店  
当座 口座番号：0608140  
名義：特定非営利活動法人  
日本チョウ類保全協会

会員種別	会員資格	年会費	会誌の有無
正会員	個人および団体 総会での議決権あり	5,000円	あり
普通会員	個人 総会での議決権なし	3,000円	あり
子ども会員	18歳以下の個人	500円	あり
家族会員	正会員の家族の方	500円	なし
個人賛助会員	事業を賛助する個人	10,000円	あり
団体賛助会員	事業を賛助する団体（法人）	30,000円	あり
法人特別会員	本会を特別に支援する法人	100,000円	あり

本会では、私たちの活動を一緒に協働したり、ご協力・ご支援いただける法人様を募集しております。

CSR事業で、本冊子を利用して庭のチョウを調べたり、地域の環境を守る活動でチョウに注目してみたいはいかがでしょうか？ チョウは身近な自然に興味をもつ対象として、とてもわかりやすく、初めての方でも取り組みやすい対象です。

ご興味・ご関心をお持ちになりましたら、巻末に記載の連絡先に、お気軽にご連絡ください。

# チョウの飼育方法 Q&A

チョウの飼育に関してよく受ける質問を、Q & A の形式でまとめました。

Q1

チョウの幼虫を育ててみたいのですが、どうすればよいでしょうか？

A1

チョウを飼育して観察することで、蛹から羽化する場面の感動はもとより、幼虫のさまざまな習性についての理解も深まります。

チョウは手軽に飼育できます。プラスチックのケースなどを幼虫の大きさや幼虫の数に合わせて利用し、新鮮な柔らかい葉を与え、葉が乾燥しないように、切り口を湿らせた脱脂綿やティッシュで巻いておきます。えさは、毎日または1日おきぐらいに交換し、その際に幼虫の糞などもきれいに掃除します。幼虫が大きくなると、容器に木の枝や割り箸などを入れておけば、そこを利用して蛹となります。

ポイントとしては、飼育容器を清潔に保つことが第一です。清潔でない場合、病気などが発生することがあります。



食品を入れる容器であるプリンカップは、様々な大きさがあり、飼育容器に最適

Q2

飼育したアゲハが冬の12月頃に蛹から羽化して成虫になってしまいました。どうすればよいでしょうか？



暖かい室内に蛹を置いておくと、外が寒い時期に羽化してしまうことが多いので注意

A2

冬の時期に、成虫を外に放してもすぐに死んでしまいますので、長生きをさせるには、プラスチックの容器などで飼育します。しかし、成虫の飼育は難しく、寿命も長くて1週間程度です。

蛹は冬に室内など暖かいところにおいておくと羽化してしまうため、外に置いておきましょう。また、日長で季節を判断している種類もあり、秋に明るい時間が野外よりも長い室内で飼育すると、冬を越すことができない蛹になって死んでしまいます。容器を屋外に置けば、これらの問題は防げます。

Q3

チョウの幼虫が鳥などに食べられるのか、すぐにいなくなってしまう。無事に成虫になるにはどうすればよいでしょうか？

A3

飼育ケースで飼育する以外に、食草に袋をかけて、鳥や他の昆虫類などの天敵が入れないようにする方法もあります。これは「袋がけ」と呼ばれ、ナイロンなどの細かいネットで、幼虫をそのまわりの食草と一緒にすっぽりと覆います。

袋の中には、十分なえさが入るようにしますが、えさがなくなりそうになった場合は、幼虫を袋ごと別の枝などに移動させます。このようにして、蛹まで成長したら、袋を外します。なお、24ページで紹介したように、チョウの幼虫は、鳥などの他の生きものの餌としても大切です。自然界のバランスも考えながら、チョウだけを増やしすぎないように、適宜行ってください。



洗濯ネットなどを利用して、枝にくくりつけることで、鳥やハチなどの天敵を防ぐことができる



## さらに詳しく知るために

チョウについてさらに詳しく知る際に、特に参考になる書籍を下記に紹介しました。

### ■チョウの庭について

「バタフライガーデン入門」1999年、農山漁村文化協会。定価 2,286円

### ■チョウの成虫について

「フィールドガイド日本のチョウ」2012年、誠文堂新光社。定価 1,800円

「日本産蝶類標準図鑑」2006年、学習研究社。定価 7,000円

### ■チョウの生態について

「原色日本蝶類生態図鑑」I～IV。1982～1984年、保育社。定価 5,000円前後

### ■チョウやその他の卵、幼虫、蛹について

「イモムシハンドブック」「イモムシハンドブック2」

2010,2012年、文一総合出版。定価各 1,400円

「庭のイモムシケムシ」「道ばたのイモムシケムシ」

2011,2012年、東京堂出版。定価各 1,600円

「虫の卵ハンドブック」2012年、文一総合出版。定価 1,600円

「日本産幼虫図鑑」2005年、学習研究社。定価 18,000円

※本の定価はいずれも税抜き価格です。



フィールドガイド日本のチョウ

## 《参考文献ほか》

- 1) 海野和男 (1999) バタフライガーデン入門. 農山漁村文化協会.
- 2) 日本チョウ類保全協会編 (2012) フィールドガイド日本のチョウ. 誠文堂新光社.
- 3) みんなで作る日本産蛾類図鑑編 (2011) 庭のイモムシケムシ. 東京堂出版.
- 4) 石井実 (2003) 庭のチョウのモニタリング調査 1997～2002年の結果. 日本産蝶類の衰亡と保護第5集, 225-242. 日本鱗翅学会.
- 5) 牧林功 (1985) チョウとつきあう本. 日本交通公社.
- 6) NPO 法人 生態教育センター「お庭の生きもの調査」
- 7) Henry P-Y, Manil L, Cadi A, Julliard R (2005) Two national initiatives for butterfly monitoring in France, pp. 85. In: Kuehn E et al.(eds) Studies on the ecology and conservation of Butterflies in Europe. Vol 1: General concepts and case studies. Pensoft Publishers, Bulgaria.
- 8) The French Garden Butterfly Monitoring のウェブサイト: <http://www.noeconservation.org/>
- 9) 久居宣夫 (2009) 自然教育園および新宿御苑の蝶類. 自然教育園報告 40: 9-45.
- 10) 久居宣夫・矢野亮・久保田繁男 (2006) 皇居の蝶類相モニタリング調査 (2000-2005). 国立科博専報 43: 137-159.

## 庭のチョウ — 身近なチョウを楽しもう —

©2014 JAPAN BUTTERFLY CONSERVATION SOCIETY

発行日: 2014年1月31日

著者: 中村康弘、佐々木幹夫

編集: JBCS庭のチョウ類プロジェクト— 井上晴子、黒沢美菜子、  
近藤万里、佐々木幹夫、鶴藤俊和、永井 信、永幡嘉之、中村康弘、  
松村行栄、溝田浩二

発行者: 特定非営利活動法人 日本チョウ類保全協会 (JBCS)

デザイン: 株式会社レモリノ (柏木 賢一郎)

写真提供者: 秋元俊夫、秋山昌範、井上晴子、内田秀雄、大橋田鶴子、  
小田康弘、木村藤香、黒坂桐子、小林信夫、小林望光、  
近藤栄作、近藤万里、佐々木幹夫、佐藤伸一、塩 昭夫、  
鈴木 隆、高崎 明、竹内 剛、田中和良、津田増夫、  
鶴藤俊和、戸苅 淳、永井 信、中村康弘、永幡嘉之、  
成田智哉、益永 葉、溝田浩二、村越 一、村野隆夫、  
足立区生物園

表紙イラスト: 吉川千賀子 目次イラスト: 萩原和奈可

本誌に掲載の原稿、写真、図版を問わず、  
その全部または一部の無断転載を禁じます。

### 特定非営利活動法人 日本チョウ類保全協会

Japan Butterfly Conservation Society (JBCS)

事務局

〒140-0014 東京都品川区大井1-36-1-301

TEL・FAX: 03-3775-7006 携帯: 080-5127-1696

E-mail: [jbcsc@japan-inter.net](mailto:jbcsc@japan-inter.net)

URL: <http://www.japan-inter.net/jbcsc/>



この冊子は積水ハウス株式会社及び  
積水ハウスマッチングプログラムから  
の助成によって作成されました。





バタフライ  
マーク  
(野線アタリ)

UD  
FONT